

日・時間	学 習 活 動	留 意 事 項
1 日 目 3	<p>1～3 「にゆうがくしきに さんかしよう」</p> <p>○ <u>入学式（学校行事）</u>に参加する。 ・当該校の計画による。</p> <p>○ <u>学級活動</u>に参加する。 ・学級担任の話を聞く。</p> <p>・学校名，学級名，学級担任の名前を知る。</p> <p>・自分の名前を呼ばれたら，大きな声で返事をする。</p> <p>・明日の予定を聞く。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事 学活 幼保小接続事項あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式の前にトイレに行かせる。幼保小 ・待っている時間に，歌や簡単な手遊び等で緊張感をほぐすとよい。幼保小 ・式に参加する心構えを話してから，入場させる。 ・補助の教師が最後まで付き添い，学級担任の補助をする。 ・教師に注目をさせてから話すようにする。「おへそを先生の方に向けて」「椅子ごとこちらを向いて」等の指示をすると伝わりやすい。幼保小 ・短冊を貼ったり，黒板に書いたりして，学校名，学級名，学級担任の名前を示し，教師の後に続けて言わせるとよい。 ・教師が元気よく右手を挙げて「はい」と返事するなど，手本を示すとよい。 ・教師が児童の近くに行き，視線を合わせながら，呼名する方法もある。その際，一人一人の返事の仕方でもかった点を具体的に取り上げ，称賛するとよい。 ・持ち物，登校の仕方，服装・安全帽・名札，下校予定時刻・下校方法等を，学年便りなどを利用して，簡潔に説明する。 ・明朝，教室に来たら，ランドセルを机の上に置いて待つよう，児童に指示しておくともよい。 ・保護者と一緒に，ロッカーや靴箱，傘立ての場所を確認させてから下校させる。
2 日 目	<p>1 「しぎょうしきに さんかしよう」</p> <p>○ <u>始業式（学校行事）</u>に参加する。 ・当該校の計画による。</p> <hr/> <p>2 <u>がっこうの せいかつ・はじめまして「じぶんで できる ことを ふやそう」</u>①</p> <p>○ <u>生活科</u>の教科書口絵P.2, 3「<u>がっこうの せいかつ・はじめまして</u>」を基に，自分でできるようになりたいことを発表する。 「元気よく挨拶や返事ができるようになりたいです。」 「靴箱，傘立て，机，ロッカーを上手に使えるようになりたいです。」 「おうちからの手紙や連絡帳をきちんと出せるようになりたいです。」 「並びっこができるようになりたいです。」 「挨拶ができるようになりたいです。」 「手洗い場やトイレが使えるようになりた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が慣れるまでは，昇降口や教室で出迎えるようにすると児童は安心して登校できる。 ・教師が笑顔で挨拶をし，挨拶を返せた児童を称賛し，学校生活への意欲を高める。 ・ランドセルを机の上に置くよう指示する。 <p>時間計上にかかわる各教科等：行事 幼保小接続事項あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式の前にトイレに行かせる。幼保小 ・静かに整列させる。 ・教室で，隣の子と手をつながせて，席から順番に並べせるとよい。幼保小 ・廊下を歩くときは，右側を2列で静かに歩くことを伝える。 <p>時間計上にかかわる各教科等：生活 学活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学校に対する興味・関心を大切にし，学校生活への安心感と期待感を高めさせる。 ・一人一人の多様な発言を認め，1年生になり，自分のことは自分でできるようになりたいという意欲を高めさせる。 ・みんなの前では，「はい」と返事をして，丁寧な言葉遣いで話すことができるとよいことを伝える。

<p>2 日 目</p>	<p>いです。」等</p> <p>○ <u>用具を机の中に整理してしまう，ランドセルをロッカーにしまう，提出物を出す等，登校後に行くことを知る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランドセルを机の上に置く。 ・持ってきたものを机の上に出す。 ・持ってきたものを机の中に整理をして入れる。 <p>・ランドセルをロッカーにしまう。</p> <p>・提出物を出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容として，用具を机の中に整理してしまう，ランドセルをロッカーにしまう，提出物を出す等，登校後にやることを知らせる。 ・帽子がある場合は，ランドセルの横に置くように声がけする。 ・ランドセルの向きを逆にすると，中の物が取り出しにくいことに気付かせる。 ・机の中へのしまい方が，いつ見ても確認できるように絵で示し，掲示しておくとうい。 ・道具箱を机の中に入れる場合は，箱のふたと本体とを並べ，左側に学校に置く道具類（お泊まり箱），右側に教科書・ノート類（持ち帰り箱）を入れるなど，学年で約束を決めて指導する。 ・お泊まりの箱の整理については，大きい物は下にする，向きをそろえる，よく使う道具は取り出しやすい手前や上にする等，活動をさせながら教えるとうい。 ・ロッカーに，児童の名前を書いたテープなどを貼っておくとうい。 ・帽子や上着の扱いについては，学校や学年の方針による。 ・ランドセルを入れる向きを確認させる。 ・スタート期は，保護者からの連絡も多いので，提出箱などを用意しておくとうい。 ・連絡帳は，毎日開いて提出させるようにする。 ・朝の支度がスムーズにできるようになるまで，絵や言葉で順序を簡潔に示したカードなどを黒板に掲示するとうい。 ・励ましたり，がんばることができた自分に気付くことができるように称賛したりする。
<p>3</p>	<p>3 たのしい いちにち 「とうげこうの しかたを おぼえよう」①</p> <p>○ <u>通学団会（学校行事）に参加して，登校の仕方を知り，きまりを守って下校する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学団の名前，班長の名前，集合場所と集合時刻を知る。 ・交通のきまりについて知る。 <p>・通学団ごとに並び，交通のきまりを守って下校する。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学団の班長が教室まで1年生を迎えに行ったり，連絡帳に貼り付ける「連絡カード」に必要な事項（通学班の班長の名前，学年・学級等）を記入したりできるよう，職員会議などで依頼をしておくとうい。 ・通学団の担当者は，右側通行，一旦停止と左右確認，手上げ横断，信号機の色の意味等を絵や掛図などを使って説明し，児童の安全な登下校への意識を高めさせる。 ・学区の通学路の実態に合わせた指導をする。 ・必要なきまりについては取り上げて指導する。 ・通学班の班長が1年生のペースに合わせて歩けるように，職員会議などであらかじめ依頼をしておくとうい。
<p>3 日 目</p>	<p>1, 2 がっこうの せいかつ・はじめまして 「じぶんで できる ことを ふやそう」②</p> <p>○ <u>生活科の教科書P.114, 115べんりてちょう「あいさつ」を基に，時や場，相手に応じてさわやかに挨拶をするとよいことを知る。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を机の中にしまう，ランドセルをロッカーにしまう，提出物を出す等，登校後に行くことを確認する。 ・自分でできた児童を称賛し，「友達が困っていたら，教えてあげよう」と声がけすると，子ども同士が教え合って早く手順を覚えるようになる。 <p>時間計上にかかわる各教科等：国語 学活 生活 幼保小接続事項あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「じぶんで できる ことを ふやそう」①での学習を想起させ，挨拶の仕方やトイレの使い方への関心を高めさせる。 ・実際に挨拶をさせて，心のこもった挨拶は，気持ちがよいことを実感させる。 ・具体的な指導を通して，元気に笑顔で相手の目を見て

<p>3 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時や場、相手に応じて、いろいろな挨拶があることを知る。 ・挨拶の必要性を考える。 ・友達同士で挨拶の仕方を練習する。 <p>○ <u>国語の教科書P. 10, 11「なんて いおうかな」</u>を見て、時や場、相手に応じた言葉や言葉遣い、動作を考え、発表したり、実際にやってみたりする。また、名前を呼ばれたら、「はい」と元気よく返事をすることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返事の仕方 ・体調が悪いときの伝え方 ・先生に用事があるときの伝え方 ・朝や帰りの挨拶の仕方 ・トイレに行きたいときの伝え方 等 <p>○ <u>トイレの場所、使い方、スリッパの揃え方を知る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの場所を知る。 ・トイレを使う。 <p>・スリッパを揃える。</p> <p>・手を石鹸で洗い、ハンカチで拭く。</p>	<p>挨拶ができるなど、明るく接することのできる児童を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵の人物になりきらせると言葉が出やすい。 <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察では、名前を呼ばれたら、「はい」と返事した後、「元気です」「お腹が痛いです」等、体調を表す事例を挙げるよう指導する。 ・手の上げ方や発表の仕方等については、定着するまで繰り返し指導する。 <p>○ <u>学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」</u>の学習内容として、取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレに行きたいときの伝え方と関連させて指導するとよい。 ・幼稚園や保育所等と比べて小学校のドアは大きく、圧迫感があるので、抵抗感を少なくするために、ドアに動物の絵などを掲示しておくことよい。幼保小 ・足を置く位置が分かるように足形マークを床に貼っておくとよい。幼保小 ・紙の使い方や水の流し方を知らせる。 ・和式のトイレの使い方に慣れていない児童も多いと考えられるので、足を置く場所や、水を流すボタンやレバーの使い方等を指導する。 ・スリッパを逆にしたままだと次の人が履きづらいことに気付かせる。 ・履きやすい向きに揃えることは、次の人のために役立つ行為であることに気付かせる。 ・みんなが気持ちよく使うには、マナーを守ることが大切であることに気付かせる。 ・ハンカチは、毎日持参するように伝える。
<p>目</p>	<p>3 がっこうの せいかつ・はじめまして 「じぶんで できる ことを ふやそう」③</p> <p>○ 配付物や机の中の用具をランドセルにしまうなど、<u>帰りの支度の仕方</u>を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡袋に連絡帳や学校からのお便りを入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ランドセルを持ってきて机の上に置く。 ・ランドセルの中に用具をしまう。 <p>たのしい いちにち 「とうげこうの しかたを おぼえよう」②</p> <p>○ <u>学年下校の仕方</u>を知り、下校する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下校グループ名、メンバー、並ぶ位置や並び順を知り、交通のきまりを守って下校す 	<p>時間計上にかかわる各教科等：学活 生活 幼保小接続事項あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「じぶんで できる ことを ふやそう」①での学習を想起させ、帰りの支度の仕方や学年下校の仕方への関心を高めさせる。 <p>○ <u>学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」</u>の学習内容として、取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お便りの角と角を合わせ、片手で紙を押さえ、もう片方の手で折り目を付けるときに、「手でアイロンがけてね」と声がけをしながら、教師が手本を見せるとよい。幼保小 ・お便りなどをすぐになくしてしまう児童には、名前を書くように声がけするとよい。 ・ランドセルの金具が顔に当たらないように、注意させる。 ・上着、帽子の準備をさせる。 ・学校に置く道具類（お泊まり箱）について、説明する。 ・教科書・ノート類（持ち帰り箱）を取り出し、机の上で整理して、大きいものから順番にランドセルの中に入れるよう説明する。 ・自分の持ち物かどうかを確認させる。 <p>○ <u>学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」</u>の学習内容として、取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学団や方面別に色やマークを指定し、表示すること

<p>3 日 目 3</p>	<p>る。</p>	<p>で、自ら行動できる児童を育てる。 ・学級の中で同じ通学団ごとにグループの編制を行って から、学年のグループを編制して、並び順を決めるな ど、事前に学年間で共通理解を図っておく。 ・下校方面別児童の一覧表を用意し、補助の教員が対応 できるように配慮する。 ・解散場所から家までの危険箇所については、指導を徹 底する。 ・方面別の下校時には、事前に補助の教師や保護者に依 頼し、児童の安全確保に努める。</p>
<p>4 日 目</p>	<p>1 がっこうの せいかつ・はじめまして 「じぶんで できる ことを ふやそう」④</p> <p>○いろいろな挨拶を学習したことを振り返り、 <u>「わたしたちの道徳」P. 54, 55「気もちの よい ふるまいを」</u>を基に、挨拶をしたとき の気持ちを発表する。 「気持ちがつながります。」 「自分の気持ちが伝わって嬉しいです。」 「やる気が出てきます。」等</p> <p>○わたしたちの道徳P. 56, 57「気もちの よい ふるまいを」に、できるようになりたい挨拶 を三つ記入し、学校や家で1週間実行するこ とを知る。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：道徳 生活 国語</p> <p>・「じぶんで できる ことを ふやそう」①での学習 を想起させ、挨拶の仕方への関心を高めさせる。 ・<u>生活科</u>の教科書P. 114, 115 <u>べんりてちょう「あいさつ」</u> や<u>国語</u>の教科書P. 10, 11 <u>「なんて いおうかな」</u>での 学習を想起させ、「わたしたちの道徳」P. 54, 55の吹 き出しに当てはまる挨拶を記入させる。 ・挨拶をすると周りの人と気持ちがつながるなど、よい ことがたくさんあることに気付かせる。</p> <p>・保護者には、「わたしたちの道徳」を児童に持ち帰ら せ、挨拶を実践させることを学年便りなどを通して知 らせる。また、児童の記録後、「家の人から」の欄に 励ましの言葉を記入してもらうよう依頼する。</p>
<p>4 日 目</p>	<p>2, 3 たのしい がくしゅう 「いい こと たくさん あさが はじまる」</p> <p>○<u>生活科</u>の教科書口絵P. 6, 7「<u>たのしい がく しゅう</u>」を基に、学校での学習を想像する。 「みんなで歌を歌います。」 「数の勉強をします。」 「遊具で遊びます。」等</p> <p>○<u>国語</u>の学習について知る。 ・読む、書く、話す、聞くなど言葉の勉強</p> <p>○<u>準備</u>の仕方を知る。 ・授業が始まる前に用具を準備する。</p> <p>○教科書の開き方を知る。 ・表紙の折り目を付ける。 ・裏表紙の折り目を付ける。 ・教科書の真ん中辺りを開き、上から手で押 さえる。</p> <p>○<u>国語</u>の教科書P. 0～8「<u>あさ</u>」を学習する。 ・教師に合わせて「あさ」の詩を声に出して 読む。 ・P. 0～3の挿絵から、見つけたものを発表す る。 「テントウムシやチョウがいます。」 「鳥が飛んでいます。」</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 国語 学活 幼保小接続事項あり</p> <p>・児童の期待感を大事にしなが、自由に発言させる。 ・みんなの前では、「はい」と返事をして、丁寧な言葉 遣いで話すことができるとよいことを伝える。 ・学習することは、楽しいことであることに気付かせる。</p> <p>・学活「<u>ぼくも わたしも 1ねんせい</u>」の学習内容と しても取り扱う。 ・教科書の表紙から、教科書の内容を想像させるとよい。 ・「読むこと」「書くこと」の他に、「話すこと」「聞く こと」が大切であることを知らせる。 ・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して 置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもた せる。 ・筆箱の中身を確認させる。 ・準備する用具は、学年便りなどを通して、前もって家 庭に連絡しておくことよい。 ・時間割の読み方を教え、家庭においては、連絡帳や時 間割表を確認しながら、翌日の学習用具を早めにそろ えるように指導し、習慣化させる。 ・新しい教科書を開くのは初めてなので、他の教科でも 応用できるよう、教科書の開き方を丁寧に教える。 ・「指アイロン」「手のひらアイロン」などの言葉を使 い、指や手のひらで折り目をしっかりと付けさせると よい。幼保小 ・音読するときの教科書の持ち方を教える。 ・詩の作者について説明する。 ・範読後の追いかけ読み、共読み、一斉読みなど、形態 を工夫して、音読指導を行う。 ・教科書拡大図（デジタル教科書や掛図）があれば、活 用を図る。 ・発表するときの手の上げ方、指名されたときの返事の 仕方、答え方を指導し、練習させる。</p>

<p>4 日 目 3</p>	<p>「桜や菜の花が咲いています。」 「子どもたちを見つけました。」 「虫をつかまえようとしている子がいます。」 「友達同士で遊んでいます。」 等</p> <p>・ P. 4～8の挿絵を見て、気付いたことや想像したことを発表する。</p> <p>・ 学校の「いいこと」を探しに、校庭に出て、挿絵の人物になりきって動作化したり、楽しく遊んだりする。</p>	<p>・ 「はい、〇〇です」「はい、〇〇ます」という基本的な話型を教える。</p> <p>・ 友達が見つけた物を指で押さえさせたり、教科書拡大図（デジタル教科書や掛図）を活用して確認させたりする。</p> <p>・ 挿絵から、「いいこと」がたくさん始まろうとしていることに気付かせる。</p> <p>・ 自由に発表させる。</p> <p>・ P. 4, 5「つながる つながる」から、先生と子どもたちがつながっていくことを確認する。</p> <p>・ P. 6, 7「まるくなる」から、先生と子どもたちが一つの輪になっていくことを確認する。</p> <p>・ P. 8「みんな なかよし いちねんせい」から、みんな笑顔であることを確認する。</p> <p>・ 体験した学校の「いいこと」を伝え合い、学校は楽しい所であることに気付かせる。</p>
<p>5 日 目</p>	<p>1～3 たのしい がくしゅう 「ともだち いっぱい にっこにこ げえむ (めいし こうかん げえむ)を しょう」①</p> <p>○ 仲間づくりのゲームとして、「ゲーム（鬼遊び）」を行い、たくさんの友達と仲よく遊ぶ。</p> <p>・ 鬼遊びのルールを決める。</p> <p>・ 鬼遊びをする。</p> <p>○ 知ってる友達の名前を出し合い、より多くの友達の名前を知る。</p> <p>○ 名刺づくりをすることを知り、正しい鉛筆の持ち方や、正しい姿勢で、自分の名前を書く練習をする。</p> <p>・ 国語の教科書P. 14を基に、鉛筆の正しい持ち方を確認する。</p> <p>えんぴつ つまんで もちあげて すうっと たおして</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語 体育 図工 生活 幼保小接続事項あり</p> <p>・ <u>生活科</u>の教科書口絵P. 6, 7「<u>たのしい がくしゅう</u>」での学習を想起させ、「ともだち たくさん にっこにこ げえむ (めいし こうかん げえむ)」をすることを知らせ、仲間づくりをしたり、いろいろな学習をしたりすることへの関心を高めさせる。</p> <p>・ 「<u>ゲーム（鬼あそび）</u>」は、<u>体育</u>として計上するが、ここでは、遊びの一環として行わせる。</p> <p>・ 赤白帽子を着用させる。</p> <p>・ 鬼の決定、逃げてよい場所、鬼の交代の仕方等、児童の意見を取り入れながら、ルールを決めさせる。</p> <p>・ 友達と名前を呼び合い、仲よく活動する中で、攻めたり逃げたりすることのおもしろさに気付かせる。</p> <p>・ こおり鬼、しっぽとり、手つなぎ鬼、ふえ鬼、たかたか鬼等、幼稚園や保育所等でやったことのある鬼ごっこから始めるとよい。幼保小</p> <p>・ 鬼になる子が偏らないように配慮し、運動量が均等になるように交代させる。</p> <p>・ ルールを守っているか見守り、必要に応じて助言する。また、児童の様子を見て、よりよいルールに変更するとよい。</p> <p>・ 時間があれば、いろいろな鬼遊びを紹介するとよい。</p> <p>・ しっぽとりを行う場合は、しっぽになるもの（はちまきなど）を準備する。</p> <p>・ 黒板に学級全員の写真を貼るとよい。</p> <p>・ 黒板に座席表の枠を書き、児童から発表された名前を一人一人書き入れ、全員の名前を書くようにする。</p> <p>・ 友達の名前を聞くことで、友達への関心を高め、友達と仲よくなりたいという気持ちを高めさせる。</p> <p>・ <u>国語</u>の教科書P. 16「<u>どうぞ よろしく</u>」を基に、「ともだち たくさん にっこにこ げえむ (めいし こうかん げえむ)」をするために、名刺づくりをすることを伝える。</p> <p>・ 鉛筆の持ち方や正しい姿勢、線なぞり等の指導については、書写の教科書P. 3～7で、改めて行うため、ここでは無理の無い範囲で行う。</p> <p>・ 2 BまたはBの三角鉛筆か六角鉛筆を用意させる。</p> <p>・ 正しい鉛筆の持ち方の絵を提示する。</p> <p>・ 鉛筆を3本の指できちんと支えているか個別に確認する。</p> <p>・ 正しい鉛筆の持ち方が身に付くまでは、根気強く繰り返し</p>

<p>5 日 目 3</p>	<p>なかゆび まくら きちんと じょうずに もてたかな</p> <p>・国語の教科書P.15を基に、正しい姿勢を確認する。</p> <p>あしは べったん せなかは びん おなかと せなかに ぐう ひとつ かみを おさえて さあ かこう</p> <p>・国語の教科書P.14, 15を活用し、直線や曲線をなぞる練習をする。 ・国語の教科書P.16を活用し、自分の名前を書く。</p> <p>○名刺カードを複数枚つくる。</p> <p>・名刺カードに自分の名前を鉛筆で書く。 ・名刺カードに自分の好きな物をクレヨンで描く。</p>	<p>返し指導する。</p> <p>・姿勢は、椅子の腰掛けから注意し、足、背筋、腹、手の順に正していくよう指導する。</p> <p>・机に貼ってある名前シールや、黒板に書かれている座席表の名前を見て書くように指示する。 ・支援が必要な児童には、教師が薄く下書きをしたり、鉛筆を持って書かせたりするとよい。 ・自分の名前と好きな物をかくスペースを設けた簡単なカード（A5サイズ）を準備し、配付する。 ・名刺カードの拡大版を用意し、右半分に自分の名前、左半分に好きな物の絵をかくよう指導する。また、つくった名刺の分だけ友達と名刺交換することができることを知らせる。 ・自分の好きなものをたくさん友達に知らせたいという思いを膨らませるようにする。 ・右半分に大きく濃く書かせる。 ・フェルトペンでなぞらせてもよい。 ・<u>図工「おきにいりを かこう」</u>として取り扱う。 ・新聞紙の下敷き（新聞紙を複数枚合わせて、周りをガムテープで貼り合わせた物）を敷かせる。幼保小 ・下敷きの作成については、学年便りなどを通して、事前に保護者に依頼をしておく。 ・左半分に大きく濃く描かせる。 ・クレヨンの先を持ってゆっくり線を描いたり、横にして、広く塗ったりするとよいことを指導する。 ・好きな物が思いつかない児童には、「好きな食べ物は何ですか」などと対話をしながら、児童が描きたい物を自分で決められるように支援する。 ・描くことができない児童には、果物・花・車等の絵カードを用意し、見ながら描いてもよいことを伝える。</p>
<p>6 日 目</p>	<p>1 たのしい がくしゅう 「ともだち いっぱい につこにこ げえむ (めいし こうかん げえむ) を しよう」②</p> <p>○「ともだち いっぱい につこにこ げえむ (めいし こうかん げえむ)」の方法を知る。</p> <p>①音楽に合わせて教室の中を歩き、音楽が止まったときに、近くにいた友達とペアになる。 ②握手をして、じゃんけんをする。 ③勝った友達が、自分の名前と好きな物を伝える。 「わたしの名前は、○○です。 ○○が好きです。 よろしくお願いします。」 ④負けた友達が、自分の名前と好きな物を伝える。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語 音楽 生活</p> <p>・名刺カードをつくったことを想起し、「ともだち いっぱい につこにこ げえむ (めいし こうかん げえむ)」をすることを知らせる。 ○<u>国語の教科書P.16「どうぞ よろしく」</u>として取り扱う。</p> <p>・代表の児童と一緒に、「ともだち いっぱい につこにこ げえむ (めいし こうかん げえむ)」の方法を説明するとよい。</p>

	<p>⑤名刺カードを交換し、握手をする。</p> <p>○「ともだち いっぱい にっこにこ げえむ (めいし こうかん げえむ)」をする。</p> <p>○「ともだち いっぱい にっこにこ げえむ (めいし こうかん げえむ)」を振り返り、楽しかったことを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分がつくった名刺カードは全て持たせ、友達からももらった名刺カードは、一番下にさせるとよい。 つくった名刺カードの数だけ「ともだち いっぱい にっこにこ げえむ (めいし こうかん げえむ)」ができるが、なくなった児童には、口頭で行わせてもよいことを伝える。 音楽の学習として、教科書P.2～5「あつまれ！おながく なかま」の曲を使用するようにする。 教師は、グループの様子を見て回り、うまくペアがつかれない児童の支援をする。 友達との距離が縮まるように、笑顔で楽しんで行うように支援する。 児童の反応を観察し、一人一人のよさを認めたり、支援したりする。 「友達と学習することは楽しい」という気持ちを最後に共有し合えるようにさせる。
<p>6 日 目</p>	<p>2 たのしい がくしゅう 「せんや じを かこう」</p> <p>○書写の学習について知る。 ・字の形をまねて美しく書く勉強</p> <p>○準備の仕方を知る。 ・授業が始まる前に用具を準備する。</p> <p>○書写の教科書P.3～5「<u>じを かく しせい</u>」「<u>えんぴつの もちかた</u>」を見て、字を書く姿勢と鉛筆の持ち方を確認する。 ・字を書く姿勢を確認する。 あしは べったん せなかは びん おなかと せなかに ぐう ひとつ かみを おさえて さあ かこう ・鉛筆の持ち方を確認する。 えんぴつ つまんで もちあげて すうっと たおして なかゆび まくら きちんと じょうずに もてたかな</p> <p>○書写の教科書P.6, 7「<u>たのしく かこう</u>」に例示されている線をなぞったり、名前を書いたりする。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：書写 学活 生活 国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活科の教科書口絵P.6, 7「<u>たのしい がくしゅう</u>」での学習を想起させ、字を書くことへの関心を高めさせる。 学活「<u>ぼくも わたしも 1ねんせい</u>」の学習内容としても取り扱う。 「しよしゃ」と「かきかた」の言葉を混同して使うと児童が分からない場合もあるので気を付ける。 筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 準備する用具は、前もって学年便りなどを通して家庭にも連絡しておくことよい。 筆箱の中には、2 BまたはBの三角鉛筆か六角鉛筆を用意させておく。 字を書くときの正しい姿勢の掲示資料を使い、教師が手本を見せる。また、資料は常時掲示しておくことよい。 字を書く姿勢は、国語の教科書P.15を参考にするとよい。 机間指導をして、姿勢のとり方が上手な児童を具体的に称賛すると、他の児童がまねようとする。 正しい鉛筆の持ち方の掲示資料を使い、教師が手本を見せる。また、資料は常時掲示しておくことよい。 鉛筆の持ち方は、国語の教科書P.14を参考にするとよい。 鉛筆を3本の指できちんと支えているか個別に確認する。 正しい鉛筆の持ち方が身に付くまでは、根気強く繰り返し指導する。 手を用紙に対して斜めに添えさせる。 線をなぞる際は、速さを競うことにならないよう、正しい鉛筆の持ち方と姿勢でのびのびと書くようにさせる。 フェルトペンを使わせてもよい。 筆圧が強すぎたり弱すぎたりする児童には、机間指導の際、教師が個別に手本を示すようにする。 縦半分にした画用紙を用意し、自分の名前を書かせると「初めて書いた名前」として掲示物に利用できる。また、保管をしておくこと、3月に学習する「もうすぐ

<p>6 日 目</p>	<p>3 たのしい がくしゅう 「かぞえて みよう」①</p> <p>○指を使って数を数える練習をする。 ・教師の手拍子の数を指を使って数える。</p> <p>○音の数だけ仲間を集める「かず あわせ げえむ」をして、遊ぶ。</p> <p>・タンブリンの音を指を使って数える方法で行う。</p> <p>①音楽が鳴っている間は、歩く。 ②音楽が止まったら、その場で止まり、タンブリンの音の数を聞く。 ③タンブリンの音の数を指を使って数えて、同じ人数が集まって座る。</p> <p>○文字の数だけ仲間を集める「かず あわせ げえむ」をして、遊ぶ。 ・カードに書かれた文字数を指を使って数える方法で行う。</p> <p>①音楽が鳴っている間は、歩く。 ②音楽が止まったら、その場で止まり、教師が用意したカードを見る。 ③文字の数を指を折って数えて、同じ人数が集まって座る。</p>	<p>2年生」で、自分の成長を実感できる材料となる。</p> <p>時間計上にかかわる各教科等：算数 音楽 生活</p> <p>・生活科の教科書口絵P.6, 7「たのしい がくしゅう」での学習を想起させ、数への関心を高めさせる。 ・算数「オリエンテーション」として計上するが、遊びを通して、数の感覚を豊かにすることを目的とする。 ・全員を座らせ、静かな環境の中で、指を折って数えさせる。 ・机を移動して行うとよい。 ・「さんぽ」など、音楽「あつまれ！おんがく なかま」の曲を使う。 ・ここではまだ、折った指とタンブリン音の数が1対1で対応できればよい。</p> <p>・動物名や果物名などを活用するとよい。 ・カードには、例えば「ぞ・う」「き・り・ん」「ば・ん・だ」のように児童がよく知っている動物にするとよいが、慣れてきたところに、「じ・ゃ・い・あ・ん・と・ぼ・ん・だ」など、長い名前や知らないような名前を出すと盛り上がる。(動物名の場合) ・ここではまだ、折った指と文字の数が1対1で対応できればよい。 ・「もうじゅうがり」で行う方法もある。</p>
<p>7 日 目</p>	<p>1, 2 たのしい がくしゅう 「ともだち いっぱい にっこにこ ひょう (たんじょうび ひょう) を つくろう」</p> <p>○<u>図工</u>の学習について知る。 ・絵を描いたり、新しい物をつくったりする勉強</p> <p>○<u>準備</u>の仕方を知る。 ・授業が始まる前に用具を準備する。</p> <p>○「ともだち いっぱい にっこにこ ひょう (たんじょうび ひょう)」をつくる。 ・「ともだち いっぱい にっこにこ ひょう (たんじょうび ひょう)」をつくることを知り、自分が誕生した月を発表する。 ・クレヨンでカードいっぱいに自分の顔を大きく描いて、塗る。</p> <p>・はさみの使い方を知り、輪郭から周り1センチくらいを残して切る。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：図工 学活 生活 幼保小接続事項あり</p> <p>・生活科の教科書口絵P.6, 7「たのしい がくしゅう」での学習を想起させ、「ともだち いっぱい にっこにこ ひょう (たんじょうび ひょう)」をつくることを知らせ、活動への関心を高めさせる。 ・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容としても取り扱う。 ・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 ・準備する用具は、前もって学年便りなどを通して家庭にも連絡しておくといよい。 ・クレヨン、はさみ、のり、新聞紙の下敷きを準備させる。 ・図工「ともだち いっぱい」として取り扱う。 ・あらかじめ教師が風船、列車など12か月分の台紙と自分の顔を描いた見本をつくっておくとよい。</p> <p>・八つ切り画用紙を半分に切った用紙を配付する。 ・図工の教科書P.52, 53のクレヨンの使い方を参考にし、教師と一緒に順番に描かせるとよい。 ・自分の顔の輪郭を指でなぞって、形や大きさを感じ取らせてから、紙にまず指で描かせ、その後クレヨンを持たせて描かせると大きく描ける。 ・顔の輪郭が小さくならないように、大きさの例を示す。 ・ゆっくりと丁寧に描かせる。 ・図工の教科書P.55を基に、はさみの持ち方や紙を動かして切る方法など、切り方を教える。 ・刃先を人に向けない、使わない時はしまうなど、安全</p>

7 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ誕生日ごとに集まり、教師が用意した台紙に自分が描いたカードをのりで貼る。 	<p>な取り扱いについて約束させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「顔の周りを指一本くらい空けて切りましょう」と指示をするとよい。分からない児童には、切るところを鉛筆で薄く描いてやるとよい。 ・あらかじめ児童の生年月日を確認しておき、児童の顔の絵を貼る位置を確保しておく。また、貼らせる場所の下に、児童の生まれた月・日と名前を書いておくと貼る場所の目安になる。 ・図工の教科書P.56を基に、指の腹を使って、紙の隅々まで薄くのりをつけることを教える。 ・スティックのりを使用させてもよい。 ・所定の場所に貼るように指導する。
	<p>3 たのしい がくしゅう 「かぞえて みよう」②</p> <p>○「ともだち いっぱい にっこにこ ひょう (たんじょうび ひょう)」を見て、各誕生月の児童の数を数えたり、数の大小について確かめたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各誕生月の児童の数を指を使って数える。 <p>・各誕生月の児童の数の大小について、1対1対応をさせながら調べる。</p> <p>たのしい いちにち 「がっこう せいかつを たのしく しょう」①</p> <p>○チャイムや放送の役割を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイムは、時間の始まりや終わりを知らせる合図である。 ・放送は、緊急に知らせる連絡である。 <p>○チャイムが鳴ったときの行動について考え、伝え合う。</p> <p>「外で遊んでいる時は、急いで教室に戻ります。」 「廊下にいる時は、走らず教室に戻ります。」 「教室にいる時は、席に着いて静かに勉強します。」等</p> <p>○放送が入ったときの行動について考え、伝え合う。</p> <p>「黙って、聞きます。」 「地震避難などの大事な放送の場合もあるので、しっかり聞きます。」等</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数 学活 生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科の教科書口絵P.6, 7「たのしい がくしゅう」での学習を想起させ、「ともだち いっぱい にっこにこ ひょう (たんじょうび ひょう)」を使って、数を数えることへの関心を高めさせる。 ・算数「オリエンテーション」として計上をするが、遊びを通して、数の感覚を豊かにすることを目的とする。 ・「ともだち いっぱい にっこにこ ひょう (たんじょうび ひょう)」を掲示する。 ・「4月生まれのお友達の数を指を使って数えましょう」などと声がけしながら、各誕生月の台紙に貼られた児童の顔の絵の数を指を折って1対1対応(絵と指)をさせながら数えさせる。 ・折った指の数だけ、黒板に○を付けていくとよい。 ・「○月生まれのお友達と○月生まれのお友達とでは、どちらの月のお友達の方が多いですが」などと質問をしながら、○月生まれと○月生まれの児童の顔の絵を1対1対応(絵と絵)をさせながら調べさせる。 ・慣れてきたら、「1番多い月は5月ですが、その次に多い月は、何月ですか」「生まれた人数が同じ月は、何月と何月ですか」等、月の人数を比較しながらいろいろ問題を出すとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を楽しくするために、集団生活上必要なチャイムや放送への関心を高めさせる。 ・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容として、取り扱う。 ・チャイムの合図や放送の役割について、各学校の実態に合わせて指導する。 ・授業時間、放課、給食、掃除などの時間が学校全体で決まっていることに気付かせる。 ・放送は緊急に知らせる連絡であるので、口を閉じて静かに聞くことが大切であることを知らせる。 ・チャイムの合図を守らないと他の友達が困ることを実感させ、合図を守って行動しようとする気持ちを高めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・放送を聞かないと、安全確保ができない場合があることを実感させ、放送を聞こうとする気持ちを高めさせる。

<p>1, 2 たのしい いちにち 「がっこう せいかつを たのしく しょう」②</p> <p>○生活科の教科書口絵P8, 9「<u>たのしい いちにち</u>」を基に、これからの学校生活の中で、友達と一緒に<u>行く活動</u>について発表し、学校生活のおよそを知る。 「教室で、みんなと字を覚えます。」 「放課にみんなと遊具で遊びます。」 「授業が終わったら、同じ系の友達と黒板を消します。」 「お姉さんが、『グループになって給食を食べます』と言っていました。」等</p> <p>○幼稚園や保育所等と小学校の様子を比べて、気付いた事を発表する。 「自分たちで給食を準備します。」 「自分たちで使った教室を掃除します。」 「運動場が広いので、いろいろな学年の子が遊んでいます。」 「お迎えがなくなり、友達と帰ります。」 「班長さんのお兄さんや近くの友達と一緒に登校します。」等</p> <p>8 日 目 ○楽しく学校生活を送るために必要なことを考える。</p> <p>○校庭の固定施設で遊ぶときの約束やルールを考えて、遊ぶ。 ・校庭を探検したときのことを想起して、見つけた遊具を発表し、幼稚園や保育所等にあった遊具と比べ、似ているところや違うところを発表する。 「遊具が大きいです。」 「遊具がたくさんあります。」 「変わった遊具があります。」等</p> <p>・遊ぶときの約束やルールを考えて発表する。 「友達を押しません。」 「順番を守ります。」 「慌てて行動しません。」 「譲り合います。」等</p> <p>・正しい遊具の使い方を理解して遊ぶ。</p> <p>・約束やルールを守って楽しく遊べたか振り返る。</p> <p>○約束やルールを守って遊具を使った「ゲーム(鬼遊び)」をする。</p> <p>がっこうのせいかつ・はじめまして 「じぶんで できる ことを ふやそう」⑤</p> <p>○靴の整頓の仕方や靴箱の使い方を知る。 ・自分の靴箱を確認する。 ・下履きを置く段に、入れる向きを確かめて下靴を入れる。 ・下靴のかかとを揃える。 ・上靴を履く。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 体育 学活 幼保小接続事項あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ単に「勉強します」などと発表させるのではなく、集団の中で生活していることや、学校の施設などにも着目させて、発表させるようにする。 ・みんなで学校生活を送ることは、楽しいことであることを認識させ、意欲的に学校生活を送ろうとする気持ちがもてるように、声がけしながら発表させる。 ・幼稚園や保育所等での生活と小学校での生活を比べて、似ていることや違っていることに着目させる。幼保小 ・約束やルールを守ったり、役割を果たしたりすることが大切であることに気付かせる。 ・楽しく学校生活を送るために、約束やルールを守ったり、役割を果たしたりすることが大切であることに着目させ、<u>体育の「器械・器具を使つての運動遊び(固定施設)」</u>へと学習を進める。 ・体育として計上をするが、ここではまだ遊びの一環として取り扱う。 ・幼稚園や保育所等とを比べ、違いを知ることで、約束やルールの必要性に気付かせる。幼保小 ・一度に多くの児童が使用するので、約束やルールが必要なことに気付かせる。 ・危険な遊び方をすると、大きなけがにつながることに気付かせる。 ・遊具の使い方については、一つ一つ説明する。 ・遊びの約束やルールを守って、みんなで楽しく遊んでいる児童を称賛し、みんなに広め、友達のよいところをまねるように促す。 ・約束やルールを守って遊ぶことの楽しさをに気付かせる。 ・約束やルールを守って、みんなで遊ぶと楽しいことに着目させ、引き続き、<u>体育の「ゲーム(鬼遊び)」</u>へと学習を進める。 ・たかたかおに、いろおに等、遊具を使った「ゲーム(鬼遊び)」をさせるとよい。 ・学活「<u>ぼくも わたしも 1ねんせい</u>」の学習内容として、取り扱う。 ・「じぶんで できる ことを ふやそう」①での学習を想起させ、靴の整頓の仕方や靴箱の使い方への関心を高めさせる。 ・校庭から教室に戻るタイミングを活用して行う。 ・「正しい靴の入れ方」の絵カードを掲示しておくことよ
--	---

<p>8 日 目</p>	<p>○ <u>手洗い場の使い方</u>を知る。 ・順番に並ぶ。 ・水の出し方と止め方を知る。 ・石鹸を使って、指の間や手首まで洗う。</p> <p>2 たのしい がくしゅう 「かぞえて みよう」③</p> <p>○ <u>算数の学習</u>について知る。 ・数や数字にかかわるきまりを覚えたり、数字で考えたりする勉強</p> <p>○ <u>準備の仕方</u>を知る。 ・授業が始まる前に用具を準備する。</p> <p>○ <u>算数の教科書</u>P. 4, 5を基に、数の大小について判断したり、数の量感を確認したりする。</p> <p>・かえるとはすの葉を線で結んで、1対1で対応させて数の大小を判断する。 ・鳥と巣を線で結んで、1対1で対応させて数の大小を判断する。</p> <p>・ちょうちょの上に数図ブロックを置き、その後、ブロックを固め、数の量感を確かめる。</p> <p>3 ・かえるや鳥でも同様に数の量感を確かめる。</p>	<p>い。 ・きちんとかかどが揃っている児童を称賛して、そのよさを児童に考えさせるとよい。 ・外から帰ったら、手洗い・うがいをすることを知らせる。 ・児童の数より蛇口が少ないことに気付かせ、みんなで順序よく使うように指導する。</p> <p>時間計上にかかわる各教科等：算数 学活 生活</p> <p>・生活科の教科書口絵P. 6, 7「<u>たのしい がくしゅう</u>」での学習を想起させ、数の学習への関心を高めさせる。 ・学活「<u>ぼくも わたしも 1ねんせい</u>」の学習内容としても取り扱う。 ・算数の教科書の表紙裏～P. 5を基に、「お話づくり」をさせ、「算数」の学習のイメージを膨らませる。 ・うさぎとりすが、探検に出かけ、いろいろな数字と出会いながら旅をするイメージをもたせるとよい。 ・教科書拡大図（デジタル教科書や掛図）を活用するとよい。 ・話は教科書のP. 15まで続くことを知らせ、今後の展開に興味をもたせる。 ・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 ・準備する用具は、学年便りなどを通して、前もって家庭に連絡しておくことよい ・数図ブロックを準備させる。 ・算数「<u>オリエンテーション</u>」として、初めて算数の教科書を使って学習をさせるが、ここでも数の感覚を養うことを重視して指導に当たるようにする。 ・「ともだち いっぱい につこにこ ひょう(たんじょうび ひょう)」を使った学習活動を想起させるとよい。 ・1対1で対応させる方法は、算数の学習の基礎となるので、机間指導をして、確実にできているかを個別に確かめる。 ・1対1での対応とならない事例を確認することで、数の大小に気付かせる。 ・1つの絵に数図ブロックを1個を置くことに注意させる。 ・具体物と半具体物が1対1で対応することを知らせ、この半具体物が数であり、数字へと展開していくことを感覚的に捉えさせる。</p>
<p>9 日 目</p>	<p>1 がっこうのせいかつ・はじめまして 「じぶんで できる ことを ふやそう」⑥</p> <p>○ <u>傘のしまい方と置く場所や、レインコートの畳み方と置く場所</u>を知る。また、<u>雨の日の過ごし方</u>を考える。</p> <p>・傘を閉じる。 ・傘を置く。 ・レインコートを畳む。 ・レインコートを置く。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：学活 生活</p> <p>・9日目の計画は、雨の日を想定している。晴れた場合は、日程の入れ替えをして実施するとよい。 ・「<u>じぶんで できる ことを ふやそう</u>」①での学習を想起させ、雨の日の用具のしまい方や過ごし方への関心を高めさせる。 ・学活「<u>ぼくも わたしも 1ねんせい</u>」の学習内容として、取り扱う。 ・傘を閉じてくるくると巻き、最後に留め金をしっかり留めるとよいことに気付かせる。 ・一人一人仕切りのある傘立てには、名前や番号を記しておくことよい。 ・袖と袖を合わせて畳み、袋に入れるようにさせる。 ・フック等がある場合は、乾くまで干させてもよい。 ・袋に入れたレインコートを置く場所を確認させる。</p>

9 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・雨の日の過ごし方を考える。 「教室で静かに遊びます。」 「走り回りません。」 「本などを読んで過ごします。」 等 <p>たのしい いちにち 「がっこう せいかつを たのしく しょう」③</p> <ul style="list-style-type: none"> ○朝の会の仕方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・日直の仕事について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会の仕方について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことを実行して過ごすように声がけをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「がっこう せいかつを たのしく しょう」②での学習を想起させ、集団生活上必要な朝の会や帰りの会への関心を高めさせる。 ・学級の実態に応じて、仕事の内容などをあらかじめ決めておくとうい。 ・一巡目は、挨拶の号令、朝・帰りの会の簡単な司会程度にして、慣れてきたら仕事の内容を増やしていくとうい。 ・朝の会の時間を考慮して、会の内容をあらかじめ決めておくとうい。 ・初めは、なるべく単純な流れにしておき、スムーズに進められるようになったら、スピーチタイムや歌等、内容を増やしていくとうい。
	<p>2 たのしい がくしゅう 「どんな おはなしかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語の教科書P.12, 13「どんな おはなしかな」を基に、学級文庫の本の読み聞かせを聞き、本に親しむとともに、感想を伝え合う。 <p>(展開例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージ遊びをする。 ♪「おべんとうのうた」など これくらいの おべんとばこに おにぎりおにぎり ちょいとつめて ・「はらぺこあおむし」の絵本の読み聞かせを聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・「はらぺこあおむし」のアニメーションで遊ぶ。 ＜ダウトをさがせゲーム＞ ランダムに黒板に貼り付けられた絵カードの中から、違う絵本の絵カードを見つける。 ＜バラバラ絵つなぎゲーム＞ お話の順番に絵カードを並べ替える。 <ul style="list-style-type: none"> ・同じ作者の他の絵本を知る。 「だんまりこおろぎ」 「ごきげんななめのでんとうむし」 等 ・感想を伝え合う。 ・学級文庫の使い方を知る。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語 生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科の教科書口絵P.6, 7「たのしい がくしゅう」での学習を想起させ、本への関心を高めさせる。 ・ここでは、学級文庫の本の読み聞かせを想定している。図書館での読み聞かせは、10日目の計画を参照されたい。 ・手遊び歌で、お話の世界に入り込んで聞く雰囲気をつくるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・共感的に聞けるよう、輪になって話をしたり、うなずきながら聞かせたりするなど、場づくりを工夫する。 ・読み手の方を向いて聞かせる。 ・児童の反応を見て、ゆっくり絵を見せながら読み聞かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の絵を6～7枚選び、B4程度のカードにしておく。同じ作者の絵本（「だんまりこおろぎ」など）の絵も2～3枚用意しておく。 ・ゲーム感覚で話の内容を思い出させ、ストーリーの展開を確かめていく。 ・あおむしのペープサートを使い、あおむしに話をさせるなどの活動に取り組みさせるのもよい。 ・同じ作者の絵本を紹介し、教室内に展示し、児童が自由に読めるようなコーナーをつくっておくのもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・感想の聞き方を指導する。 ・自由に発表させる。 ・本の扱い方など、読書のマナーを知らせる。 ・教室の中に本のコーナーをつくり、表紙が見えるように配置すると、本が選びやすい。 ・読み聞かせをした本は、しばらくの期間、児童が自由に手に取れるよう、教室などにコーナーを設けて置いておくとうい。 ・年間を通して随時読み聞かせに取り組んでいきたい。 ・いろいろなジャンルの本を扱うようにし、図書館主任と相談し、計画的に本を配架するとよい。 ・読んだ本の題名を掲示していくとうい。「本の木」「読

<p>3 たのしい いちにち 「がっこう せいかつを たのしく しょう」④</p> <p>○わたしたちの道徳P.10, 11「きそく 正しく 気もちの よい 毎日を」を基に、気持ちのよい1日を過ごすために、気を付けることを考える。 「朝ご飯を毎日食べます。」(家庭生活) 「挨拶をします。」(家庭生活, 学校生活) 「自分で用具を揃えたり、しまったりします。」(学校生活) 等</p> <p>9 ○机の中の教科書やロッカーのランドセルなどの身の回りの片付けができているか、入学以後の生活を振り返り評価する。</p> <p>○わたしたちの道徳P.13「きそく 正しく 気もちの よい 毎日を」を基に、自分がやってみたい片付けを決め、1週間実行することを知る。</p> <p>○帰りの会の仕方を知る。 ・帰りの会の仕方について知る。</p> <p>3 ○雨天時の下校の仕方を知る。 ・並ぶ場所や並び方を知る。 ・交通にかかわるきまりを再確認する。</p>	<p>み聞かせ列車」など、読んだ本が視覚的に分かる工夫をすると読む楽しさが増す。</p> <p>時間計上にかかわる各教科等：道徳 学活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活と学校生活の両方に目を向けさせるようにする。 ・わたしたちの道徳P.12「きそく 正しく 気もちの よい 毎日を」を参考にする。 ・保護者には、「わたしたちの道徳」を児童に持ち帰らせ、片付けを実践させることを学年便りなどを通して知らせる。また、児童の記録後、「家の人から」の欄に励ましの言葉を記入してもらうよう、依頼する。 ・入学以来、自分でできることが増えたことを評価し、個々の自己肯定感を高められるようにしたい。 ・「がっこう せいかつを たのしく しょう」②での学習を想起させ、集団生活上必要な朝の会や帰りの会への関心を高めさせる。 ・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容として、取り扱う。 ・帰りの会の時間を考慮して、会の内容をあらかじめ決めておくことよい。 ・初めは、なるべく単純な流れにしておき、スムーズに進められるようになったら、内容を増やしていくことよい。 ・学年で統一した事項を教室で簡単に説明した後、実際の場所で指導するとよい。 ・音をよく聞いて、周りをよく見て歩くよう指導する。
<p>1, 2 たのしい がくしゅう 「みんなで がっこうを あるこう」</p> <p>○生活科の学習について知る。 ・体験を通して、いろいろなことに気付いたり、表現したりする勉強</p> <p>○準備の仕方を知る。 ・授業が始まる前に用具を準備する。</p> <p>10 ○生活科の教科書P.6, 7「みんなで がっこうを あるこう」を基に、入学してからこれまでに、行ったことのある場所や学校にある物、会ったことのある人などを伝え合う。 「お兄さんが、ベッドがある部屋があると 言っていました。」(場所, 物) 「その部屋には、どんな人がいるのか知りたいです。」(人) 「本がたくさんある部屋があります。」(場所, 物) 等</p> <p>○校舎内をみんなで探検する計画を立てる。</p> <p><めあて></p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 学活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科のねらいは、活動や体験を通して自立(生活上の自立, 学習上の自立, 精神的な自立)への基礎を養うことであることを教師自身が確認する。 ・上巻と下巻の教科書を左右に組み合わせると、2年分の学習内容が分かるようになっていたので活用したい。 ・筆箱, 下敷き, 教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 ・準備する用具は、学年便り等を通して、前もって家庭に連絡しておくことよい。 ・校内には、興味深い場所や物、働いている人や上級生がいることに気付かせ、場所, 物, 人に着目させながら自由に発表させる。 ・教師の引率により、校舎内をみんなで探検することを伝える。 ・場所, 物, 人に着目するよう伝える。

<p>10 日 目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいな、不思議だなと思った場所や物を見つける。 ・いろいろな人を見つける。 等 <p><約束></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の妨げにならないように、2列で並び、静かに廊下を歩いて見学する。 など ○ 教師引率の下、校舎内を探検する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 校舎内を探検して、見つけたことを伝え合う。 「校長室に行きました。校長先生がお仕事をしていました。」 「図書館がありました。本がたくさんありました。」 「体育館がありました。みんなが運動をしていました。」 「保健室に行きました。先生がけがの手当てをしていました。」 等 ○ もう一度行ってみたい場所や見てみたい場所、会いたい人について伝え合う。 「校長先生は、どんなお仕事をしているのか、聞いてみたいです。」(人) 「図書館に行って、どんな本があるか確かめたいです。」(場所、物) 「体育館で、みんなと運動したいです。」(場所) 「保健室に行きたいです。先生が優しそうだからです。」(場所、人) 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・兄や姉の学年や学級に着目させ、上級生の教室に興味をもたせるのもよい。 ・どんな人がいたかを尋ね、「人に会いたい」という気持ちも高めさせる。 ・約束については、それぞれ理由も併せて考えさせ、約束を守って探検しようとする意欲を高めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・2年生活科「春だ 今日から 2年生」と関連させて、2年生とペアで探検する活動も考えられる。 ・事前に教職員に連絡をしておき、協力を依頼しておく。 ・特別教室などの名前を平仮名で書いた簡単なカードを掲示しておくといよい。 ・児童が行きたい場所だけでなく、児童が知らない興味をもちそうな場所や、安全指導上、教師が見せておきたい場所にも連れて行く。 ・出会わせたい人には、事前に活動する時間を伝えて依頼をしておき、自然な形で出会えるようにするとよい。 ・歩いている途中で、諸感覚を使って何か気付いている児童を見取る。音やにおいなどに気付いている児童がいたら、取り上げて、称賛し、全員に広げる。 ・児童同士の伝え合いは難しいので、教師が話を聞き取り、それを全体に広げるとよい。 ・特別教室の名前、物の名前、人の名前を伝え合うだけでなく、おもしろいな、不思議だなと思ったことや興味深く思ったことなども併せて伝え合わせるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ここで出された場所、物、人を各教科等との学習と関連させていくようにする。 ・今後、国語と関連させることができる。 ・今後、体育と関連させることができる。 ・今後、身体測定と関連させることができる。
<p>3</p>	<p>3 たのしい がくしゅう⑦ 「みんなで がっこうを あるこう_としょかにんに いって おはなしを きこう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図書館で働いている人に挨拶をし、仕事の内容や知りたいことなどを質問する。 「どんなお仕事をしていますか。」 「わたしたちも、図書館で本を読むことができますか。」 等 ○ 本の読み聞かせを聞く。 ○ 本の配架場所や借り方・返し方についての説明を聞き、図書館の本を自分で選んで読む。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語 生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科「みんなで がっこうを あるこう」での学習と関連させて、図書館に行き、学習することを伝える。 ・国語P、12、13「<u>どんな おはなしかな</u>」として取り扱う。 ・図書館司書などに、あらかじめ、学習活動の協力を依頼し、児童との出会いを意図的に設定しておくといよい。 ・児童には、時や場、相手に応じた言葉や言葉遣い、動作を考えて、質問するようにさせる。 ・図書館司書などによる読み聞かせを実施し、図書館や図書館の本などに興味をもてるような活動を展開したい。 ・ブックトークなどの手法を取り入れてもよい。 ・図書館における約束を中心に説明をする。 ・コンピュータや代本板を使った本の借り方・返し方については、スタートカリキュラム終了後、実態に応じて行うようにする。 ・自由に選ばせ、本に親しませる。

<p>1～3 たのしい がくしゅう 「みんなで がっこうを あるこう_ほけん しつに いった しんたいそくていを し よう」</p> <p>○体操服への着替え方, 畳み方を知る。 ・体操服入れを机の上に置き, 体操服を出す。 ・服を脱いで, 体操服に着替える。</p> <p>・着ていた服を簡単に畳んで, 机の上に置く。</p> <p>○並び方を知り, 保健室に行く。</p> <p>・呼ばれた順に, 教室の後ろに並ぶ。 ・並ぶ順番 (出席番号順) を覚える。</p> <p>・整列の練習をする。 「前へならえ。」「なおれ。」</p> <p>「気を付け。」「休め。」</p> <p>11 日 目 ○身体測定(学校行事)について知り, 挨拶をして, 身体測定をする。 ・身体測定の意義を知る。</p> <p>・内容を知る。 ・受け方を知る。</p> <p>「みんなで がっこうを あるこう_たいい くかに いった うんどう しょう」</p> <p>○体育の学習について知る。 ・体のはたらきをよくするために, 体を動かしたり, 動かし方を練習したりする勉強</p> <p>○準備の仕方を知る。 ・授業が始まる前に体操服に着替えることを知る。</p> <p>○並び方を知り, 体育館に行く。 ・呼ばれた順に, 教室の後ろに並ぶ。 ・並ぶ順番 (背の順) を覚える。</p> <p>・前へならえをして, 整列の練習をする。 「前へならえ。」「なおれ。」</p> <p>「気を付け。」「休め。」</p> <p>○体育館のトイレの場所を知る。 ○体育の「体づくり運動 (体ほぐし)」をする。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：体育 行事 生活 国語 幼保小接続事項あり</p> <p>・生活科「みんなで がっこうを あるこう」での学習と関連させて, 保健室に行き, 身体測定をすることを伝える。 ・身体測定では, 着替えることを知らせる。</p> <p>・上の服を脱いだ後, 上の体操着を着て, 下の服を脱いだ後, 下の体操着を着るようにさせる。 幼保小</p> <p>・脱いだ服を裏返しのままにしたり, 畳まなかったりすると, 着る時に不便なことを知らせる。 幼保小</p> <p>・衣服は脱いだ物から順に畳んでいくと, 着るときに便利であることを教える。 幼保小</p> <p>・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」として, 取り扱う。</p> <p>・男女別の出席番号順に並ばせる。</p> <p>・自分の出席番号と前後の友達を覚えさせる。</p> <p>・同じ場所にもう一度並ぶことを話し, 期待感をもたせてから, 自分の場所 (席) に戻り, 再度並ぶ練習をさせてもよい。</p> <p>・「前へならえ」をするときに, 先頭の児童は腰に両手を当てることを教える。</p> <p>・「トントン前」からやらせてもよい。 幼保小</p> <p>・健康手帳を見せながら, 成長の記録として身体測定は大切なものであることを説明する。</p> <p>・順番を待つ間は, 静かにすることを教える。</p> <p>・国語科の教科書P. 10, 11「なんて いおうかな」を想起させ, 「お願いします」「ありがとうございました」などの挨拶をさせる。</p> <p>・生活科「みんなで がっこうを あるこう」での学習と関連させて, 体育館に行き, 学習することを伝える。</p> <p>・体育として取り扱う。</p> <p>・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容としても, 取り扱う。</p> <p>・準備する物は, 学年便りなどを通して, 前もって家庭に連絡しておく。</p> <p>・半袖, 長袖, 短パン, 赤白帽子, 体育館シューズなどの名称を教える。</p> <p>・教室で並び直させる。</p> <p>・男女別の背の順で並ぶことを教える。</p> <p>・男女別の背の順に並ばせ, 座らせるとよい。</p> <p>・自分の前後の友達を覚えさせる。</p> <p>・同じ場所にもう一度並ぶことを話し, 期待感をもたせてから, 自分の場所 (席) に戻り, 再度並ぶ練習をさせてもよい。</p> <p>・「前へならえ」をするときに, 先頭の児童は腰に両手を当てることを教える。</p> <p>・「トントン前」からやらせてもよい。 幼保小</p> <p>・慣れてきたら, 先頭の位置や向きを変えてすばやく並ぶ練習をするとよい。</p> <p>・体ほぐしは, 心ほぐしでもあることを理解して, 運動</p>
--	--

<p>11 日 目 3</p>	<p>(活動例) <体のバランスをとる運動遊び> ・リラックスしながら、ペアでストレッチをする。 ・心が弾むような動作で、リズムに乗って運動を行う。等 <体を移動する運動遊び> ・壁にタッチしたら戻る。 ・蟹走りをする。 ・スキップをして走る。 ・回転を3回入れて走る。等 <用具を操作する運動遊び> ・ボールを使って、つかむ、持つ、下ろす、回す、転がす、運ぶ、投げる等の運動をする。 ・フラフープを使って、持つ、回す、転がす、くぐる、運ぶ、投げる、捕る等の運動をする。 <力試しの運動遊び> ・人を押す、引く動きや力比べをしたり、人を運ぶ、支える動きをしたりする。 ○集合の仕方を知る。 ・指示に従い、集合したり、並んだりする。 ○教室に戻り、<u>体操服のしまい方</u>を知る。 ・体操服を脱いで、服に着替える。 ・体操服を畳んで、体操服入れに入れる。</p>	<p>することの楽しさや心地よさを実感させる。 ・ストレッチや相手の肩や頭、腕をほぐす「きゅうりの塩もみ」などの活動を教師が示し、体の状態を確認し合わせるとよい。 ・幼稚園や保育所等で行ったことのある遊戯や、簡単なリズム運動を取り入れるとよい。幼保小 ・きまりを守らせる。 ・楽しく体を動かしながら、多様な基礎感覚やバランス感覚を身に付けさせる。 ・約束として、確認しておくといよい。 (指導例) ピッ・ピーの笛…「しゅっ・ごー(集合)」の合図。 指輪並び…輪になって集合する。 扇子並び…教師を中心に、扇子状に集合する。等 ・体育として取り扱う。 ・逆の順番で、体操服から服に着替えさせる。幼保小 ・教師が手本を示し、体操服入れを机の上に乗せ、袋の口を開いて中に入れると入れやすいことを知らせる。</p>
<p>12 日 目</p>	<p>1～3 たのしい がくしゅう⑦ 「こうていを あるいて みよう」 ○生活科の教科書P.8, 9「<u>こうていを あるいて みよう</u>」を基に、校庭の気になる場所、物、会ったことのある人を伝え合う。 「お兄さんが、運動場で体育の勉強をしていました。」(場所, 人) 「花壇のチューリップに水をやっていた人に会いました。毎日会います」(場所, 物, 人) 「飼育小屋に、ウサギがいました。赤ちゃんがいるようです。」(場所, 物) 等 ○校庭をみんなで探検する計画を立てる。 <めあて> ・おもしろいな、不思議だなと思った場所や物を見つける。 ・いろいろな人を見つける。 <約束> ・体育の授業の妨げにならないよう行動する。など ○「さんぽ」の曲に身振り手振りを付けて、楽しく歌う。 ○教師引率の下、校庭を探検する。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 音楽 図工 ・校庭には、興味深い場所や物、働いている人や上級生がいることに気付かせ、場所、物、人に着目させながら発表させる。 ・教師の引率により、校庭をみんなで探検することを伝える。 ・場所、物、人に着目するよう伝える。 ・兄や姉について尋ね、上級生の活動に興味をもたせるのもよい。 ・どんな人がいたかを尋ね、「人に会いたい」という気持ちを高めさせる。 ・理由も併せて考えさせ、約束を守って探検しようとする意欲を高めさせる。 ・歌うことで、散歩の気分を味わうとともに、活動の意欲付けとする。 ・<u>音楽の教科書P.2, 3「あつまれ!おんがく なかま</u>」を参照させる。 ・2年生生活科「春だ 今日から 2年生」と関連させて、2年生とペアで探検する活動も考えられる。 ・事前に教職員に連絡をしておき、協力を依頼しておく。</p>

<p>12 日 目</p>	<p>○見つけたことを伝え合う。 「チューリップがたくさん咲いていました。」 「白いウサギや白黒のウサギがいました。赤ちゃんには、あまり毛が生えていませんでした。」 『きけん』と書かれた看板がありました。何か危険な物が置いてあるのだと思います。」 「昨日、お花にお水をやっていた人が今日もお花にお水をやっていました。汗をかいていました。」 等</p> <p>○もう一度行ってみたい場所や見てみたい場所、会いたい人について伝え合う。 「チューリップのほかにもいろいろな種類の花を見つけたいです。」(物) 「飼育小屋のウサギを抱いてみたいです。」(場所, 物) 「水をやっていた先生の名前を知りたいです。」(人) 「運動場のすみっこに、まだ使ったことのない遊具がありました。」 等</p> <p>「こうていを あるいて みよう__こうていの はなを かこう」</p> <p>○校庭の花壇に咲く花を描くことを知り、めあてをもつ。 <めあて> ・花の咲いている場所を探し、好きな花を見つけて、観察する。 ・好きな花をクレヨンで描く。</p> <p>○校庭の花壇に咲く花を描く。</p> <p>○片付けをして、集合する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室などの名前を平仮名で書いた簡単なカードを掲示しておくといよい。 ・児童が行きたい場所だけでなく、児童が知らない興味をもちそうな場所や、安全指導上、教師が見せておきたい場所にも連れて行く。 ・出会わせたい人には、事前に活動する時間を伝えて依頼しておく、自然な形で出会えるようにするとよい。 ・歩いている途中で、諸感覚を使って何かに気付いている児童を見取る。音やにおいなどに気付いている児童がいたら、取り上げて、称賛し、全員に広げる。 ・児童同士の伝え合いは難しいので、教師が話を聞き取り、それを全体に広げるようにする。 ・場所の名前、物の名前、人の名前を伝え合うだけでなく、おもしろいな、不思議だなと思ったことや興味深く思ったことなども併せて伝え合わせるようにする。 ・ここで出された場所、物、人を各教科等と関連させていくようにする。 <p>・今後、図工や音楽に関連させることができる。</p> <p>・今後、体育に関連させることができる。</p> <p>・生活科「<u>こうていを あるいて みよう</u>」で、校庭を探検したことと関連させて、花壇の花の絵を描くことを伝える。</p> <p>・<u>図工「おきにいりを かこう」</u>として、取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が指定した範囲内で、花を探すように指導する。 ・色、形、におい、触った感じ、大きさ、葉や花びらの様子等を諸感覚を使って観察するよう指導する。 ・八つ切り画用紙を半分にして配付し、探検バッグにはさませ、クレヨンを持たせて、校庭に引率する。 ・事前に、花壇に植えられている花の名前を調べて、答えられるようにしておく。 ・色、形をよく見て描くよう指導する。 ・一つの花を紙いっぱいに描かせ、しっかり色を塗るよう指導する。 ・あらかじめ、「長い針が8になったら、朝礼台に集合しましょう」などと、終わりの時間を示しておくといよい。
<p>13 日 目</p>	<p>1 たのしい がくしゅう 「こうていを あるいて みよう__うたを うたおう」</p> <p>○自分が描いた校庭の花の絵を紹介する。 ・花壇で見つけた花を発表する。 チューリップ、パンジー、ビオラ、サクラソウ、ヒヤシンス、クレサンセマム、ワスレナグサ 等</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 学活 生活 関連：図工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科「<u>こうていを あるいて みよう__こうていの はなを かこう</u>」での学習を、歌「ちゅうりつぷ」に関連させて、音楽へと学習を進める。

13	<ul style="list-style-type: none"> 自分が描いた花を紹介する。 「たんぼぼを描きました。小さいおひさまみたいでかわいいです。」 「チューリップを描きました。お母さんのスカートみたいできれいです。」等 「ちゅうりっぷ」を元気よく歌う。 音楽の学習について知る。 <ul style="list-style-type: none"> 歌を歌ったり、歌を聴いたり、楽器を奏でたり、音をつくったりする等、音を楽しむ勉強 準備の仕方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> 授業が始まる前に用具を準備する。 音楽の教科書P.4, 5「<u>しって いる うたを みつけて みんなで うたおう</u>」の挿絵から、歌を見つけ、体を動かしながら歌う。 こたりのうた、ちゅうりっぷ、やぎさん ゆうびん、ちょうちょ、おつかいありさん、こいのぼり、めだかのがっこう、かえるのがっしょう、ばすごっこ、いぬのおまわりさん 等 	<ul style="list-style-type: none"> 気付きに着目させて、発表させる。 「みたい」という言葉を使って、比喩表現させると気付きが広がる。 児童が描いた絵の中に、歌になっている花があることに着目させる。 学活「<u>ぼくも わたしも 1ねんせい</u>」の学習としても取り扱う。 筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 筆箱の中身を確認させる。 準備する用具は、学年便り等を通して、前もって家庭に連絡しておくとうい。 みんなで表現を楽しめるようにさせる。 拍の流れや曲の気分を感じ取って自由に表現させ、児童の反応を見る。 校庭で見つけた物に関する歌があれば、体験を振り返りながら歌わせるのもよい。
日 目	<p>2 たのしい がくしゅう 「こうていを あるいて みよう__こうていで うんどう しょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 校庭に行き、固定施設で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 体操服に着替える。 固定施設で約束やルールを守って遊ぶ。 体操服を脱ぎ、畳んでしまう。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：体育 生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活科「<u>こうていを あるいて みよう</u>」での学習を、校庭の固定施設に関連付けて、体育へと学習を進める。 体育の「<u>器械・器具を使つての運動遊び（固定施設）</u>」として取り扱う。 体操服の着脱、固定施設を使つての遊びは2度目になる。前回よりも素早く服を着脱したり、仲間意識をもって約束やルールを守って遊んだりできるようにさせる。
3	<p>3 たのしい がくしゅう 「こえの おおきさ、どうするの」</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語の教科書P.18, 19「<u>こえの おおきさ どう するの</u>」の4つの場面より、場に応じた声の大きさについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> 教室でみんなの前で話をするとき 隣同士で相談するとき 廊下にいるとき 校庭で友達と遊ぶとき それぞれの挿絵から話していることを想像して、声の大きさを考えて、実際に話す練習をする。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語 生活 関連：生活 幼保小接続事項あり</p> <ul style="list-style-type: none"> 場に応じた声の大きさを話すことの必要性を理解させる。 学校で統一した「声のものさし」があれば、活用するとよい。幼保小 この時間に学んだことを、この後に行う生活科のグループによる探検「<u>ともだちと がっこうを たんけん しょう</u>」、「<u>がっこうに いる ひとと なかよく なるう</u>」、「<u>こうていを たんけん しょう</u>」で実践していく。
14 日 目	<p>1～3 たのしい がくしゅう 「ともだちと がっこうを たんけん しょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「みんなで がっこうを あるこう」での、学習を想起し、もう一度、校舎内で行きたい場所や見たい物、会いたい人を伝え合う。 「保健室に行きたいです。身体測定でお世話になった保健の先生にお礼が言いたいです。」(場所、人) 	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 書写 国語 道徳 図工</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活科の教科書P.10, 11「<u>ともだちと がっこうを たんけん しょう</u>」を参照させる。 「みんなで がっこうを あるこう」は、教師引率による探検であるのに対し、「ともだちと がっこうを たんけん しょう」は、グループによる探検であることに留意する。

<p>14日</p>	<p>「図書館に行きたいです。読み聞かせをしてくれた先生とお話がしたいです。お気に入りの本も見つたいです。」(場所, 物, 人) 「理科室に骸骨がありました。骸骨と友達になりたいです。名前も付けてあげたいです。」(場所, 物) 等</p> <p>○校舎内をグループ探検する計画を立てる。</p> <p>＜めあて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいな, 不思議だなどと思った場所や物, いろいろな人を見つける。 ・声の大きさや話し方, ふるまいに気を付けて, 学校にいる人たちとかかわりながら, 探検する。 ・校舎内の場所, 物, 人にかかわる文字も見つける。 <p>＜約束＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の妨げにならないように, 2列で並び, 静かに廊下を歩いて見学する。 ・危険な場所や, 迷惑になる場所に, 自分勝手に入らない。 等 <p>○行きたい場所ごとにグループをつくり, 探検したい場所, 物, 人を確認する。</p> <p>○グループで, 校舎内を探検する。</p> <p>○校舎内で見つけた場所, 物, 人をカードに絵と文字でかく。</p> <p>○見つけたことをペアやグループで伝え合う。</p> <p>「保健室の冷蔵庫の中を, 保健の先生が見せてくれました。氷や湿布が入っていました。身体測定のお礼もしっかり言えました。」(場所, 物, 人) 「図書館に行きました。この前, 読み聞かせをしてくれた先生に, 『私の好きな本は, すいかのたねです』と伝えました。先生と一緒に『すいかのたね』の本を探してくれました。『また, 本を読みに図書館に来て下さいね』と言われました。私は, また図書館に行きたいです。」(場所, 物, 人) 「教頭先生が, 特別に理科室に入れてくれました。骸骨君がいました。少し怖かったけど, 楽しかったです。」(場所, 物, 人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ単に場所や物, 人だけを発表させるのではなく, 児童がそこに着目した意図も伝えられるように指導する。 ・教師が1対1で話を聞き取り, それを自然な形で全体に広げるとよい。 ・児童の「行ってみたいな」「見てみたいな」「会いたいな」というつぶやきを取り上げて全体に広げ, グループ探検の意欲を高めさせる。 ・発言内容を場所, 物, 人に分類して板書するとよい。 ・「がっこうのひみつをさがそう」など, 児童が興味をもてるようなめあてがあるとよい。 ・対象と繰り返しかかわらせたい。 ・国語「<u>なんていおうかな</u>」, <u>生活科の教科書P.114, 115「あいさつ</u>」, <u>わたしたちの道徳P.54~57「気持ちのよいふるまいを」</u>の実践の場とさせる。 ・書写の教科書P.1, 2「<u>がっこうのもじたんけん</u>」の学習としても取り扱い, 場所, 物, 人に関連した文字も見つけることを伝える。 ・<u>生活科の教科書P.11「やくそく」</u>を活用し, 探検の約束づくりへの関心を高めさせる。 ・国語「<u>こえのおおきさ, どうする</u>」の学習を想起させる。 ・入ってはいけない場所には, あらかじめ「×」などの貼り紙しておくとうよい。 ・児童の実態に配慮しながら, 教師が主導してグループをつくることも考えられる。 ・声の大きさや話し方, ふるまいに気を付けて, 学校にいる人たちとかかわりながら, 探検させる。 ・事前に教職員に探検についての連絡をして, 探検の約束が守れない児童への指導を依頼しておくとうよい。 ・探検の様子が振り返られるように写真を撮っておくとよい。 ・<u>図工「おきにいを かこう」</u>の学習として, 取り扱う。 ・おもしろいな, 不思議だなどと思った場所や物, いろいろな人をカードに絵と文字でかかせる。 ・話をしたり, 体を使って表現したりすることを好む傾向がある児童もおおり, 画一的にカードにかいたものだけで評価することは避ける。 ・グループ内でカードの内容がなるべく重ならないように指導する。 ・見つけたことを称賛し, 自分自身への気付きを促すよう助言をするとよい。 ・<u>生活科のグループによる探検「ともだちと がっこうを たんけんしよう」</u>, 「<u>がっこうに いる ひとと なかよく なるう</u>」, 「<u>こうていを たんけん しよう</u>」のまとめとして行う学級全体での伝え合いは, スタートカリキュラム終了後に設定されている「<u>がっこうだいすき_たんけんて みつけた ことを はなそう</u>」で実施する。 ・「みつけたよ こおなあ」をつくるなどして, 児童が見つけたことをいつでも情報交換できるようにしておくとうよい。
	<p>1~3 たのしい がくしゅう 「がっこうに いる ひとと なかよく なるう」</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 書写 国語 道徳 図工 関連：生活</p>

<p>○グループによる校舎内探検「ともだちと がっこうを たんけん しよう」での学習を想起し、もう一度会ってみたい人について伝え合う。 「保健室の先生にもう一度会いたいです。ぼくが、けがや病気をしたときに、保健室に行ってもいいのか聞きたいです。」 「図書館の先生は、普段、どんなお仕事をしているのか、聞いてみたいです。」 「骸骨君を見せてくれた教頭先生にまた違った物を見せてもらいたいです。」 「音楽の先生に、楽器を見せてもらいたいです。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の教科書P. 12, 13「<u>がっこうに いる ひと なかよく なるう</u>」を参照させる。 ・「がっこうに いる ひと なかよく なるう」は、グループによる探検であることに留意する。 ・ただ単に人だけを発表させるのではなく、児童がそこに着目した意図も伝えられるように指導する。 ・教師が1対1で話を聞き取り、それを自然な形で全体に広げるとよい。 ・児童の「会いたいな」というつぶやきを取り上げて全体に広げ、グループ探検の意欲を高めさせる。 ・会いたい人を聞き取り板書するとともに、校舎図を活用して、その人がいそうな場所を全員で確認するとよい。 ・教職員の顔写真を用意しておき、まだかかわっていない人が学校にはたくさんいることに気付かせてもよい。 ・「聞いてみる」「何か見せてもらおう」など、具体的なかかわり方を考えている児童を取り上げて称賛し、全体に広げるとよい。
<p>○人と仲よくなるグループ探検の計画を立てる。 ＜めあて＞ ・すてきな人を見つける。</p> <p>・声の大きさや話し方、ふるまいに気を付けて、学校にいる人たちにインタビューしながらかかわる。 ・その人の名前やいた場所など、その人にかかわる文字も見つける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「すてきなひとをさがそう」など、児童が興味をもてるようなめあてがあるとよい。 ・対象と繰り返しかかわらせたい。 ・国語「<u>なんて いおうかな</u>」、生活科の教科書P. 114, 115「<u>あいさつ</u>」、道徳「<u>気もちの よい ふるまいを</u>」の実践の場とさせる。 ・書写の教科書P. 1, 2「<u>がっこうの もじたんけん</u>」の学習としても取り扱い、人に関連した文字も見つけることを伝える。
<p>＜約束＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の妨げにならないように、2列で並び、静かに廊下を歩いて見学する。 ・危険な場所や、迷惑になる場所に、自分勝手に入らない。等 <p>○会いたい人を基にグループをつくり、会いたい人を確認する。</p> <p>○生活科の教科書P. 13「<u>がっこうに いる ひととはなそう</u>」を基に、インタビューの練習をする。 「失礼します。こんにちは。」 「1年〇組の〇〇〇〇です。」 「お話を聞かせてください。」 「ありがとうございました。」 「失礼しました。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の教科書P. 11「<u>やくそく</u>」を活用し、探検の約束づくりへの関心を高めさせる。 ・国語「<u>こえの おおきさ、どうする</u>」の学習を想起させる。 ・入ってはいけない場所には、あらかじめ「×」などの貼り紙をしておくとうい。 ・児童の実態に配慮しながら、教師が主導してグループをつくることも考えられる。 ・グループ内で、繰り返し練習させる。
<p>○グループで、インタビューしながら探検する。</p> <p>○見つけたすてきな人をカードに絵と文字でかく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや話し方、ふるまいに気を付けて、学校にいる人たちに積極的にインタビューをしながら、探検させる。 ・事前に教職員に探検についての連絡をして、探検の約束が守れない児童への指導を依頼しておくとうい。 ・探検の様子が振り返られるように写真を撮っておくとよい。 ・図工「<u>おきにいを かこう</u>」の学習として、取り扱う。 ・見つけたすてきな人をカードに絵と文字でかかせる。 ・話をしたり、体を使って表現したりすることを好む傾向がある児童もおり、画一的にカードにかいたものだけで評価することは避ける。 ・グループ内でカードの内容がなるべく重ならないように指導する。
<p>○見つけたことをペアやグループで伝え合う。 「保健室の〇〇先生とお話しました。『お</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけたことを称賛し、自分自身への気付きを促すような声がけをするとよい。

<p>15 日 目 3</p>	<p>なかが痛くなったり、気分が悪くなったりしたときは、いつでも保健室に来てくださいね』と教えてくださいました。」 「図書館の先生は、私たちが図書館にいないとき、本の整頓をしたり、コンピュータを使った仕事をしたりしているそうです。」 「教頭先生は、職員室でお仕事をしていました。計算をしたり、お掃除をしたりしている人もいました。」 「音楽の〇〇先生が音楽室に入れてくれました。特別に、校歌をピアノで弾いてくれました。とても、上手でした。早く校歌を覚えたいです。」 「校長先生にも会えました。校長先生は、私たちが楽しく学校で生活できるためのお仕事をしています。〇〇先生といます。」 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活科のグループによる探検「ともだちと がっこうを たんけんしよう」、「がっこうに いる ひとと なかよく なろう」、「こうていを たんけん しよう」のまとめとして行う学級全体での伝え合いは、スタートカリキュラム終了後に設定されている「がっこうだいすき__たんけん で みつけた ことを はなそう」で実施する。 学校にはいろいろな人がいて、自分たちのために働いてくれていることに気付かせる。 「みつけたよ こおなあ」をつくるなどして、児童が見つけたことをいつでも情報交換できるようにしておく。
<p>16 日 目</p>	<p>1～3 たのしい がくしゅう 「こうていを たんけん しよう」</p> <p>○「こうていを あるいて みよう」での、学習を想起し、もう一度、校庭で行きたい場所や見たい物、会いたい人を伝え合う。 「飼育小屋に行つて、ウサギを抱きたいです。」(場所、物) 「もっといろいろな遊具を探したいです。その遊具を使つてみたいです。」(物) 「いつも水やりをしている先生に会いたいです。お手伝いをしたいです。」(人) 「ちょうちょが飛んでいました。もう一度探してみたいです。」(物) 等</p> <p>○校庭をグループ探検する計画を立てる。 ＜めあて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいな、不思議だなと思った場所や物、いろいろな人を見つける。 ・声の大きさや話し方、ふるまいに気を付けて、学校にいる人たちとかかわりながら、探検する。 ・校庭の場所、物、人にかかわる文字も見つける。 <p>＜約束を考える＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育など学習の妨げとならないように探検する。 ・危険な場所や、迷惑になる場所に、自分勝手に入らない。 ・活動してもよい範囲内で探検する。 <p>○行きたい場所ごとにグループをつくり、探検したい場所、物、人を確認する。</p> <p>○グループで、校庭を探検する。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 書写 国語 道徳 図工</p> <p>関連：生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活科の教科書P. 14, 15「<u>こうていを たんけん しよう</u>」を参照させる。 「こうていを あるいて みよう」は、教師引率による探検であるのに対し、「こうていを たんけん しよう」は、グループによる探検であることに留意する。 ただ単に場所や物、人だけを発表させるのではなく、児童がそこに着目した意図も伝えられるように指導する。 初めは、教師が「動植物」、「遊具」などの代表的な物を挙げ、児童の発言を促すとよい。 教師が1対1で話を聞き取り、それを自然な形で全体に広げるとよい。 児童の「行ってみたいな」「見てみたいな」「会いたいな」というつぶやきを取り上げて全体に広げ、グループ探検の意欲を高めさせる。 発言内容を場所、物、人に分類して板書するとよい。 「こうていの ひみつを さがそう」など、児童が興味をもてるようなめあてがあるとよい。 対象と繰り返しかかわらせたい。 <p>・国語「<u>なんていおうかな</u>」、生活科の教科書P. 114, 115「<u>あいさつ</u>」、わたしたちの道徳P. 54～57「<u>気もちの よい ふるまいを</u>」の実践の場として捉えさせる。</p> <p>・書写の教科書P. 1, 2「<u>がっこうの もじたんけん</u>」の学習としても取り扱い、場所、物、人に関連した文字も見つけることを伝える。</p> <p>・生活科の教科書P. 11「<u>やくそく</u>」を活用し、探検の約束づくりへの関心を高めさせる。</p> <p>・国語「<u>こえの おおきさ、どうする</u>」の学習を想起させる。</p> <p>・入ってはいけない場所には、あらかじめ「×」などの貼り紙をしておくとうよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に配慮しながら、教師が主導してグループをつくることも考えられる。 ウサギと触れ合う計画のある場合は、生活科の教科書P. 15「<u>うさぎを だこう</u>」を参考にウサギの抱き方を補説する。必要に応じて、直接指導してもよい。 声の大きさや話し方、ふるまいに気を付けて、学校にいる人たちとかかわりながら、探検させる。

<p>16 日 目 3</p>	<p>○校舎内で見つけた場所，物，人をカードに絵と文字でかく。</p> <p>○見つけたことをペアやグループで伝え合う。 「飼育小屋の鍵を開けて，中に入れてもらいました。うさぎさんをだっこしました。温かかったです。全部で5羽いました。かわいかったです。」(場所，物) 「すごく大きな鉄棒がありました。逆上がりができるようになりました。」(物) 「中庭に，モンシロチョウがいました。石の下には，ダンゴムシがいました。」(物) 「この前，みんなで観察池をのぞいたときは，ゼリーのような卵でしたが，今日はおたまじゃくしに変身していました。気持ちよさそうに泳いでいました。」(場所，物)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教職員に探検についての連絡をして，探検の約束が守れない児童への指導を依頼しておくことよい。 ・探検の様子が振り返られるように写真を撮っておくことよい。 ・生活科の教科書P.113べんりてちょう「けんこうにくらそう」を参考に，手洗いやうがいなど衛生面の指導を徹底する。 ・図工「おきにいりを かこう」の学習として，取り扱う。 ・おもしろいな，不思議だなど思った場所や物，いろいろな人をカードに絵と文字でかかせる。 ・話をしたり，体を使って表現したりすることを好む傾向がある児童もおり，画一的にカードにかいたものだけで評価することは避ける。 ・グループ内でカードの内容がなるべく重ならないように指導する。 ・見つけたことを称賛し，自分自身への気付きを促すような声がけをするとよい。 ・生活科のグループによる探検「ともだちと がっこうを たんけんしよう」，「がっこうに いる ひとと なかよく なろう」，「こうていを たんけんしよう」のまとめとして行う学級全体での伝え合いは，スタートカリキュラム終了後に設定されている「がっこうだいすき たんけん で みつけた ことを はなそう」で実施する。 ・校庭で生き物を見つけた児童や栽培している植物の変化を見つけた児童がいれば，取り上げて全体に広げ，今後の飼育・栽培活動につなげるとよい。 ・「みつけたよ こおなあ」をつくるなどして，児童が見つけたことをいつでも情報交換できるようにしておくことよい。
<p>17 日 目</p>	<p>1 がっこうのせいかつ・はじめまして「1ねんせいを むかえるかいに さんかしよう」</p> <p>○「1ねんせいを むかえるかい」に参加する。 ・当該校の計画による。</p> <hr/> <p>2 たのしい がくしゅう「うたに あわせて あいうえお」①</p> <p>○国語の教科書P.20～22「うたに あわせて あいうえお」を繰り返し読む。 ・「うたに あわせて あいうえお」の歌を聞き，様子を浮かべたり，歌まねしたりする。 ・「うたに あわせて あいうえお」を自分たちで声に出して読む。 ・「うたに あわせて あいうえお」を読み，気付いたことを伝え合う。 「あかるい あさひだ あいうえお と 最初に あ がついています。」 「楽しい歌です。かえるさんも楽しそうです。」 「今日も朝日を見ました。」 等 ・気付いたことや見つけたことを思い出しながら，「うたに あわせて あいうえお」を口形に気を付けて読む。 ○国語の教科書P.20～22「うたに あわせて あいうえお」の「あ・い・う」を指でなぞる。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生の入学を全校児童が祝福する会であることを事前に話しておく。 ・入学の嬉しさを再度実感させたい。 <hr/> <p>時間計上にかかわる各教科等：国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱CDを活用したり，教師の範読を聴かせたりする。 ・体を動かしたり，手足でリズムを取ったりさせる。 ・口の開け方，声の大きさ，リズム，テンポなどに気を付けさせる。 ・「い」「う」「え」「お」についても同様に答えさせることができる。 ・言葉から，連想することなどを発表させる。 ・写真の口形を参考にさせる。 ・青い部分が一目であることを押さえる。

<p>17 日 目</p>	<p>○国語の教科書P.23「うたに あわせて あいうえお」の「あ・い・う」の文字を書いて練習する。</p> <p>3 たのしい がくしゅう 「かず とすうじ」①</p> <p>○教室の中にある数字を見つける。 時計…1時, 2時～ カレンダー…1月, 2月～, 1日, 2日～ 出席番号…1番, 2番～ 友達の数…1人, 2人～ 等</p> <p>○算数の教科書P.6,7「かずと すうじ 5までの かず」を見て, 具体物としての挿絵に数図ブロックを対応させて, 5までの数を数えたり, 唱えたりする。 ・挿絵と数図ブロックを線で結び, 1から5までの数を数えたり, 唱えたりする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">(数える)</td> <td style="text-align: center;">(唱える)</td> </tr> <tr> <td>たけのこ…………○</td> <td>→1</td> </tr> <tr> <td>つくし…………○○</td> <td>→2</td> </tr> <tr> <td>いちご…………○○○</td> <td>→3</td> </tr> <tr> <td>チューリップ…○○○○</td> <td>→4</td> </tr> <tr> <td>たんぼぼ…………○○○○○</td> <td>→5</td> </tr> </table> <p>・挿絵の数を唱える。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">(唱える)</td> </tr> <tr> <td>鳥……………(○)→1</td> </tr> <tr> <td>気球…………(○○)→2</td> </tr> <tr> <td>竹……………(○○○)→3</td> </tr> <tr> <td>風船…………(○○○○)→4</td> </tr> <tr> <td>雲……………(○○○○○)→5</td> </tr> </table> <p>・切り株の上のサルを唱える。</p>	(数える)	(唱える)	たけのこ…………○	→1	つくし…………○○	→2	いちご…………○○○	→3	チューリップ…○○○○	→4	たんぼぼ…………○○○○○	→5	(唱える)	鳥……………(○)→1	気球…………(○○)→2	竹……………(○○○)→3	風船…………(○○○○)→4	雲……………(○○○○○)→5	<p>・筆順を丁寧に教える。</p> <p>時間計上にかかわる各教科等：算数</p> <p>・身の周りには, たくさんの数字があることに気付かせる。</p> <p>・教科書拡大図(デジタル教科書や掛図)を用いて, 視覚的に考えさせるとよい。</p> <p>・挿絵と数図ブロックを1対1で対応させ, 数図ブロックの塊が数であることを知らせる。</p> <p>・塊になっている数図ブロックを数えてから唱えさせる。</p> <p>・タヌキの挿絵に着目させ, 具体物(挿絵等)と半具体物(数図ブロック)と数字を対応させて, 数の概念を養うとよい。</p> <p>・慣れてきたら, 数図ブロックを数えずに唱えさせる。</p> <p>・ペアで, 唱える練習をさせるとよい。</p>
(数える)	(唱える)																			
たけのこ…………○	→1																			
つくし…………○○	→2																			
いちご…………○○○	→3																			
チューリップ…○○○○	→4																			
たんぼぼ…………○○○○○	→5																			
(唱える)																				
鳥……………(○)→1																				
気球…………(○○)→2																				
竹……………(○○○)→3																				
風船…………(○○○○)→4																				
雲……………(○○○○○)→5																				
	<p>4 たのしい いちにち 「おいしい きょうしょく」</p> <p>○小学校の給食について知っていることを発表する。 「自分たちで, 準備をして食べます。」など</p> <p>○給食の準備の仕方について知る。</p> <p>○給食の準備をして, 配膳をする。 ・当該校の計画による。 (活動例)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">給食当番や机拭き当番</td> <td style="width: 50%;">その他</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・会食のためのグループをつくる。 ・手洗いをして, 消毒する。 ・マスクをする。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・静かに着席する </td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・配膳台や児童机を拭く。 ・エプロンを着ける。 </td> <td></td> </tr> </table>	給食当番や机拭き当番	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・会食のためのグループをつくる。 ・手洗いをして, 消毒する。 ・マスクをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・静かに着席する 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳台や児童机を拭く。 ・エプロンを着ける。 		<p>時間計上にかかわる各教科等：学活 幼保小接続事項あり</p> <p>・「がっこう せいかつを たのしく しょう」②での学習を想起させ, 集団生活上必要な給食の配膳や会食への関心を高めさせる。</p> <p>・初めて給食を食べる日に合わせて実施する。</p> <p>・幼稚園や保育所等では, 持参した弁当を食べたり, 準備してもらった給食を食べたりしていたが, 小学校では, 自分たちで準備をしないと食べられないことを知らせる。また, 準備をして食べるからこそが小学校の給食の楽しさでもあることを伝える。幼保小</p> <p>・給食当番の役割分担が分かるような当番表を事前につくり, その見方と役割について説明する。</p> <p>・給食当番のグループは, 教師があらかじめ考えておく。</p> <p>・机拭き当番について説明する。</p> <p>・給食の時間と合わせて, 実際に活動をさせながら教えるとよい。</p> <p>・消毒薬の取り扱いや保管については, 安全にかかわることなので, 教師が行う。</p> <p>・約束やきまりは, 明確にして伝える。</p> <p>・机拭き用の台拭き雑巾の絞り方や, 拭き方については, 手本を示しながら, 当番になった児童から順に指導するとよい。</p> <p>・髪が落ちないように, 帽子の中に入れさせる。</p> <p>・トイレに行きたいときは, 着替える前に行くようにさせる。</p>												
給食当番や机拭き当番	その他																			
<ul style="list-style-type: none"> ・会食のためのグループをつくる。 ・手洗いをして, 消毒する。 ・マスクをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・静かに着席する 																			
<ul style="list-style-type: none"> ・配膳台や児童机を拭く。 ・エプロンを着ける。 																				

<p>17 日 目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワゴンを配膳室から運ぶ。 ・配膳する。 <p style="text-align: center;">※セルフ方式の場合は、給食を取りに行く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エプロンやマスクを脱ぐ。 ・マスクを外す <p>○会食をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揃って「いただきます」の挨拶をする。 ・分量を加減する。 ・会食を始める。 <p>○後片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食器などを返し、机を戻す。 ・机拭きをする。 ・ワゴンを返却する。 <p>○歯磨きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該校の方法による。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当番以外の児童は、静かに座って待つように指導する。 <p>幼保小</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食缶等を置く場所は、学年間で統一しておくとうよい。 ・食缶等を置く場所に、ラミネート加工した絵マーク等を貼っておくと、指導がしやすい。 ・エプロンが、袋の中から飛び出さないようにしませる。 <p>・楽しい雰囲気の中で、会食をするように配慮する。</p> <p>幼保小</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べることが遅い児童、少食の児童、偏食の児童には、給食への不安を取り除くような声がけをする。 ・食事の量については、個への対応にも配慮する。入学初期に無理強いさせると給食嫌いになり、それが原因で登校を渋る児童が出てくることもあることに留意したい。 <p>幼保小</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食に慣れてきたら、徐々に食育にかかわる指導を献立に合わせて行い、食の大切さを実感させていくとうよい。栄養教諭が所属する学校については、支援を依頼するとよい。 ・アレルギーのある児童の保護者と連絡を密に取る。特に、給食の献立に変更があった場合は、速やかに対応をする。 <p>幼保小</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかわりの仕方を知らせる。 ・「ごちそうさま」をする時間を時計に図示するなど、時間を意識できる工夫をするとうよい。 ・食器の返し方やごみ処理の仕方について、具体的に説明し、一つ一つ確かめながら行わせる。 <p>・自分の席に座って磨かせた方が指導がしやすい。</p>
<p>18 日 目</p>	<p>1 たのしい がくしゅう 「うたに あわせて あいうえお」②</p> <p>○国語の教科書P.20～22「うたに あわせて あいうえお」を繰り返し読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うたに あわせて あいうえお」の歌を聞き、様子を浮かべたり、歌まねをしたりする。 ・「うたに あわせて あいうえお」を自分たちで声に出して読む。 ・「うたに あわせて あいうえお」を読んで、付いたことを伝え合う。 ・気付いたことや見つけたことを思い出しながら、「うたに あわせて あいうえお」を口形に気を付けて読む。 <p>○国語の教科書P.20～22「うたに あわせて あいうえお」の「え・お」を指でなぞる。</p> <p>○国語の教科書P.23「うたに あわせて あいうえお」の「え・お」の文字を書いて練習する。</p> <p>○「あいうえお」を声に出して唱えたり、ノートに書いて練習したりする。</p> <hr/> <p>2 たのしい がくしゅう 「かずと すうじ」②</p> <p>○図工でつくった「ともだち いっぱい にっこにこ ひょう（たんじょうび ひょう）」を使って数字を唱えるなど、日常生活にある5までの数を探し、数を唱える。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範読CDを活用したり、教師の範読を聴かせたりする。 ・体を動かしたり、手足でリズムを取ったりさせる。 ・口の開け方、声の大きさ、リズム、テンポなどに気を付けさせる。 ・言葉から、連想することなどを自由に発表させる。 ・写真の口形を参考にさせる。 ・青い部分が一画目であることを押さえる。 ・筆順を丁寧に教える。 ・ノートのマス目に合わせた小型黒板や、マスを書いた用紙を用意し、ノート指導を行うとうよい。 <p>時間計上にかかわる各教科等：算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣れない児童には、数図ブロックを使用させ、具体物と対応させてから、唱えさせるとよい。

18 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ○算数の教科書P. 8, 9の絵を見て、5までの具体物の数を数えたり、唱えたり、数字でかいたりする。 ○具体物の増加や減少に合わせて、数図ブロックを操作し、数の系列を理解する。 ○挿絵、数図ブロック、数字のどれかを提示し、他の物を対応させ、数を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい書き順で書いているか、鏡文字になっていないか等を机間指導で確かめる。 ・1に1増えると2になることなどを数図ブロックの操作を通して理解させる。 ・具体物（挿絵等）と半具体物（数図ブロック）と数字との関連が分かるよう、5までの数字で繰り返し練習をさせる。
	<p>3 たのしい がくしゅう 「おんがくに あわせて」①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽の教科書P. 6, 7「かもつれっしゃ」を聴いて、曲の気分を感じ取り、歌詞の表す情景を想像しながら歌う。 ○音楽の教科書P. 8「サンダーバード」「どうけしのギャロップ」「ピンク・パンサーのテーマ」を聴いて、音楽に合わせて体を動かしたり、歩いたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「サンダーバード」を聴いて、曲の気分を感じ取り、拍の流れを聴き取りながら軽やかに歩く。 ・「どうけしのギャロップ」を聴いて、曲の気分を感じ取り、拍の流れを聴き取りながら軽やかに歩く。 ・「ピンクパンサーのテーマ」を聴いて、曲の気分を感じ取り、拍の流れを聴き取りながら1拍ごとに止まりながら歩く。 ○「かもつれっしゃ」を歌いながら、拍の流れに乗ってじゃんけんゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ①歌を歌いながら、曲に合わせて歩く。 ②「がっちゃん」で2人組になり、じゃんけんをする。 ③負けた人は、勝った人の後ろに着く。 (①～③の繰り返し) ○既習曲を使って、友達づくりゲーム「おもしろ あいさつ ゲーム」をしてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ①曲に合わせて歩く。 ②音楽が止まったら、2人組をつくる。 ③「こんにちワニ」と言った後、じゃんけんをして、勝った人から先に自分の名前と好きな物を一つ伝える。 ④伝え合ったら、「ありがとう。さよならラーメン」と言いながら、片方の手でハイタッチをして別れる。 (①～④の繰り返し) 	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱CDを活用したり、教師の歌を聴かせたりする。 ・貨物列車になったつもりで、腕を振りながら歌わせると、曲の気分を感じ取らせやすい。 ・曲に慣れてきたら、曲の感じに合わせて体を動かしたり、手や膝を打ったりさせて、リズムを体感させる。 ・音楽の教科書P. 9の「なみをこえて」「ぞう」も活用する。 ・拍の流れを聴き取って歩くことが難しい場合は、教師が手拍子や打楽器で拍を示すと聴き取りやすくなる。 ・身を縮めながら歩いているなど、特徴のある歩き方を取り上げ、歩き方の様子を問うと、情景をイメージする学習につながる。 ・ゲームの仕方を説明してから始めるようにする。 ・「がっちゃん」で一度止まり、手をつながせると、全員が必ず相手を見つけることができる。 ・曲に合わせて、楽しくゲームをしている児童を称賛する。 ・好きな遊び、好きな食べ物、好きなテレビ番組など、慣れてきたらテーマを変えて行ってもよい。 ・目を合わせて、笑顔で挨拶するように声がける。 ・「ハイタッチ」の他に「握手」、「手をつないで3歩散歩」など、軽い身体接触があるものを行うとよい。 ・最後に感想を伝え合わせるとよい。 ・音楽を楽しみながら、友達と肯定的なかかわりがもてたことを称賛する。
	<p>4 たのしい いちにち 「そうじを はじめよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○掃除をする前の教室の汚れを調べ、掃除の意義について考える。 「汚いと、やる気が出ません。」 	<p>時間計上にかかわる各教科等：学活 幼保小接続事項あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がっこう せいかつを たのしく しょう」②での学習を想起させ、集団生活上必要な掃除への関心を高めさせる。 ・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」として、取り扱う。 ・初めて掃除をさせる日に合わせて実施する。 ・小学校では、自分たちが使った場所は、自分たちで掃除をすることを知らせる。幼保小

<p>18 日 目 4</p>	<p>「汚いと、病気になります。」 等</p> <p>○掃除道具の正しい使い方や掃除道具のしまい方について知る。</p> <p>○掃除場所、当番と役割分担を知る。</p> <p>○教室掃除の仕方を知る。 ・当該校の方法による。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除をしないと汚れて、清潔に毎日を過ごすことができないことを実感させる。 ・自分たちで教室をきれいにしようとする意欲を高めさせる。 ・この日までに、学級で必要な掃除道具を準備しておく。 ・掃除道具に、番号を付けておくなど、当番が迷わず使用できるようにしておく。 ・教師が一つずつ使い方の手本を示し、児童に体験させる。 ・事前に当番表をつくり、その見方と役割について説明する。 ・一人一人の児童が自分の役割が分かるよう細かく分担し、責任をもって掃除できるようにするとよい。 ・始めの挨拶の仕方、椅子の上げ方、机の運び方、掃き方、ごみの始末の仕方、後片付けの仕方、終わりの挨拶の仕方等を掃除させながら指導する。 ・まずは、教室の掃除の仕方を定着させ、その他の箇所については、随時指導に当たる。
<p>19 日 目</p>	<p>1 たのしい がくしゅう 「ことばをつくろう」①</p> <p>○「あ」「い」「う」「え」「お」で始まる言葉を集めて、「あいうえお」に親しむ。 ・「あ」「い」「う」「え」「お」で始まる言葉を探して、発表する。 ・見つけた言葉の音の数を調べる。</p> <p>・国語の教科書P.24「ことばをつくろう」を見て、「あ」「い」「う」「え」「お」で始まる言葉を読む。 ・「い」のつく言葉で言葉の階段をつくって、言葉に親しむ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>い いか いるか いしころ いんどさい 等</p> </div>	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の数ごとに板書するとよい。 ・一斉に読ませて、指を使って音の数を確認させる。 ・いろいろな文字数の言葉があることを理解させる。 ・2文字の語、3文字の語を読んだり考えたりして、1音節1文字であることに気付かせる。 ・「あ」「う」「え」「お」でも、同様に行わせるとよい。
<p>目</p>	<p>2 たのしい がくしゅう 「かずと すうじ」③</p> <p>○算数の教科書P.8,9「かずと すうじ」を基に、具体物や半具体物を用いて、4や5を分解したり合成したりして、数の楽しさを味わう。 ・分解する。 「4は、1と3に分けられます。」 「4は、2と2に分けられます。」 「5は、1と4に分けられます。」 「5は、2と3に分けられます。」 ・合成する。 「1と3で、4になります。」 「2と2で、4になります。」 「1と4で、5になります。」</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めは、具体物を用いるとよい。 ・具体物による分解や合成の理解ができたなら、おはじきなどの半具体物を使って、ゲームをしながら数の分解や合成に慣れさせる。 ・両手におはじきを分け、片手を開いて見せて、もう片方の数を当てさせるとよい。 ・「5は、4と1に分けられます」など、反対の言い方もできることに気付かせ、数の楽しさに触れさせるとよい。
<p>目</p>	<p>3 たのしい いちにち 「やくそくや きまりを まもって」</p> <p>○みんなが使う学校の施設を知り、その使い方について考える。 ・道徳「わたしたちの道徳」P.122,123を参</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：道徳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級文庫、掃除道具、滑り台、一輪車、ボール等、自

<p>19 日 目</p>	<p>照し、みんなが使う学校の物を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> どのように使われているか伝え合う。 「本が揃っていて、取り出しやすいです。」 「ほうきが、フックにかかっています。」 「滑り台をするために、並んでいたら、抜かされてしまいました。」 「一輪車やボールが、運動場に落ちていました。」 「トイレのスリッパが揃っていて、履きやすかったです。」等 どのように使うとよいか考える。 「大切に使います。」 「譲り合って使います。」 「壊さないように使います。」 「みんなでなかよく使います。」 「順番を守って使います。」等 	<p>分が使うが、自分の物ではない物がたくさんあることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常を振り返り、整理整頓をしていないと後で使う人が困ること、逆に整理整頓をしていると、後で使う人が便利で気持ちよいことに気付かせ、整理整頓の大切さに気付かせる。 日常生活で、約束やきまり、マナーを守っていけるように指導する。
<p>4</p>	<p>4 たのしい いちにち 「けんこうしんだんを うけよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康診断を受ける。 当該校の計画による。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事 関連：国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語「なんて いおうかな」を想起させ、「お願いします」「ありがとうございました」などの挨拶をするように、指導する。
<p>20 日 目</p>	<p>1 たのしい がくしゅう 「ことばをつくろう」②</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語の教科書P.25「ことばをつくろう」を基に、文字カードを操作して、言葉探しをする。 文字カードをつくる。 1音の言葉を探す。 2音の言葉を探す。 3音の言葉を探す。 字の練習をする。 教科書に出てくる5つの文字をなぞる。 ノートに習った言葉を5つ書く。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語</p> <ul style="list-style-type: none"> カードを13枚ずつ配り、「あ」「い」「う」「え」「お」の他に、「ち」「ね」「ん」「り」「か」「し」「き」「に」の文字をカードに一つ一つ書かせる。 ち「血」、き「木」、え「絵」等を見つけさせる。 ちか、あき、いし、ちえ、しか等を見つけさせる。 きりん、あしか、ねおん等を見つけさせる。 書き順に気を付けて、指導する。 あり、えき、いか、おに、うしの文字をなぞらせる。 ノートのマス目に合わせた小型黒板や、マスを書いた用紙を用意し、丁寧にノート指導を行う。
<p>日 目</p>	<p>2 たのしい がくしゅう 「かずと すうじ」④</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数の教科書P.8,9「かずと すうじ」を基に、具体物の数字と数唱を確認し、数字を正しくノートに書く。 数字…1, 2, 3, 4, 5 数唱…「いち」「に」「さん」「し」「ご」 5までの数の合成と分解を確認する。 分解する。 「4は、1と3に分けられます。」 「4は、2と2に分けられます。」 「5は、1と4に分けられます。」 「5は、2と3に分けられます。」 合成する。 「1と3で、4になります。」 「2と2で、4になります。」 「1と4で、5になります。」 「2と3で、5になります。」 隣同士、ペアになり、5までの数の大小を確認する。 相手が出した数字カードの数に合わせて、 	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数</p> <ul style="list-style-type: none"> 5までの数について学習のまとめをし、量感をつかませる。 ノートのマス目に合わせた小型黒板や、升を書いた用紙を用意し、丁寧にノート指導を行う。 感覚的に素早く反応できるよう、繰り返し確認する。 算数の教科書P.17の活動を例に、5までの数を使って行わせる。 素早く反応できるよう、繰り返し確認し、数の感覚を

	<p>数図ブロックを並べる。(ならべよう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに出した数字カードの大小を比べる。(くらべよう) ・音の数を聞き、それに合う数字カードを出す。(かぞえよう) 	<p>豊かにさせる。</p>
<p>20 日</p>	<p>3 たのしい がくしゅう 「おんがくに あわせて」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽の教科書P.9「なみをこえて」を聴いて、曲の気分を感じ取り、拍の流れに合わせてゆったりと歩く。 ○「ぞう」を聴いて曲の気分を感じ取り、拍の流れを聴き取りながら、のっしのしと歩く。 ○「かもつれっしゃ」を速度を変えて歌いながら、「じゃんけんゲーム」をする。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なみをこえて」「ぞう」は、3拍子なので、横に揺れるような動きをしている児童を取り上げ、その様子をみんなで見てまねることで、多様な体の動かし方を知らせる。 ・想像したことや感じ取ったことを体の動きや言葉で表すようにさせる。 ・ピアノ演奏で速度を変えることが難しい場合は、教師が歌いながら、手拍子や打楽器で拍を表すとよい。
<p>4 目</p>	<p>4 たのしい いちにち 「がっきゅうのかかりを きめよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○係活動について知り、学級に必要な係について伝え合う。 ○係とそれぞれに必要な人数を決める。 ○係を決めて、自分ががんばることを発表する。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：学活 幼保小接続事項あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育所等でも、ある程度の係や当番活動を経験してきている。そういった経験を話させながら、どんな係が学級にあるとよいかについて伝え合わせる。 幼保小 ・全員が係活動を行うこと、みんなのために役割をもって仕事を確認することを確認する。 ・学級の人数を考慮して教師があらかじめ係の数や内容を考えておくが、児童の考えや意見も取り入れながら決定するようにする。 ・どの係もなくてはならない仕事であることを話し、活動への意欲を高めさせる。

下のように「こどものひを いわおう」を実施する場合は、「どきどき わくわく 1ねんせい」の学習活動の一部と入れ替えて実施する。

日・時間	学 習 活 動	留 意 事 項
付 録	<p>こどものひを いわおう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ こどもの日の行事や飾り物などについて知っていることを話し合う。 「端午の節句とも言います。」 「鯉のぼりや兜を飾ったり、菖蒲湯に入ったりします。」等 ○ 「こいのぼり」の歌を歌う。 ○ 鯉のぼりづくりをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ うろこをつくる。 ・ うろこを着ける。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「こいのぼり集会」ですることを話し合う。 	<p>計上：図工，生活，音楽，学活等で2時間分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もともとは男子の健やかな成長を祈願して、行われた行事である。 ・ こどもの日に鯉のぼりを揚げたり、兜を飾るいわれについて考えさせたり、話をさせたりする。 ・ 大空にこいのぼりが泳いでいる様子を想像させながら歌を歌い、自分たちで鯉のぼりづくりをすることへの期待感を膨らませる。 ・ 「こいのぼり集会」をすることを知らせる。 ・ 戸外に揚げる大きな鯉のぼりを力を合わせてつくすることを知らせる。 ・ 胴体については、あらかじめカラービニル袋を切って輪にし（3～4枚分位）、布ガムテープでつなぎ合わせておく。 ・ 口に針金を入れて、丈夫にしておくといよい。 ・ 目、ひれ、尾を貼っておく。 ・ うろこの形に切った色紙などに、絵と名前をかく。絵については、一人一人の顔や好きな動物をかけた物でもよいし、手形を押した物にする方法もある。複数枚つくらせる。 ・ のりとセロハンテープで貼る。 ・ 時間があれば、新聞紙で兜をつくらせてもよい。 ・ どんな内容で楽しむかを話し合っ決めておくといよい。 ・ ペア活動や縦割り活動を利用して「こどもの日」の行事を計画してもよい。
	<p>こどものひを いわおう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「こいのぼり集会」をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ つくった鯉のぼりを飾る。 ・ 「こいのぼり」の歌を歌う。 ・ 計画に沿った活動をする。 ○ 「こいのぼり集会」を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しかったこと ・ 自分ががんばったこと 等 	<p>計上：生活，音楽，学活等で2時間分計上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年で時間を合わせて行うようにするとよい。 ・ 口にひもをつけて国旗掲揚塔などに揚げるとよい。 ・ 歌うことによって、「こいのぼり集会」への意欲を喚起する。 ・ みんなで歌ったり、ゲームをしたりして楽しむ。 ・ 簡単な絵と言葉で表現できるような記録カードを用意する。 ・ 友達と協力し合っ楽しく活動できたことや、みんなで大きな鯉のぼりをつくったことなど児童のよさを称賛し、活動への満足感や入学してからの自分たちの成長が自覚できるように声がけをする。
4		